

# 御小屋之久保遺跡

— 詳細分布調査報告書 —

1990. 3

茅野市教育委員会

# 御小屋之久保遺跡

—— 詳細分布調查報告書 ——

1990. 3

茅野市教育委員会

## 序 文

茅野市は国の特別史跡である「尖石遺跡」、同じく国の史跡である「上ノ段遺跡」をはじめ、多くの縄文時代の遺跡の集中する所として全国的に有名ですが、その縄文時代を遙かに遡る先土器時代、あるいは旧石器時代とよばれる、人間がまだ土器を発明する前の時代の遺跡も数多く発見されています。その多くは黒曜石の産地である茅野市の麦草峠・冷山と下諏訪町の和田峠を結んだ八ヶ岳・霧ヶ峰の山腹にあり、その中でも特に白樺湖周辺は、先土器時代の遺跡が数多く集中しております。

御小屋之久保遺跡は昭和35年から37年にかけて部分的な調査が行われ、先土器時代の多くの貴重な資料の出土をみました。その調査によって、御小屋之久保遺跡は白樺湖周辺の遺跡の中でも遺跡の規模、内容とも他を遙かにしのぐ大きな遺跡として確認されております。また、遺跡の一部は地元柏原区の協力も得て、茅野市の文化財として指定され保存されております。

今回の詳細分布調査はその御小屋之久保遺跡の範囲と規模を確認するため、国庫および県費の補助を受けて行われました。対象面積約24,000m<sup>2</sup>にわざか数十個の試掘坑を開けるものでしたが、それでも当初の予想を遥かに上回る成果を得ております。今後この詳細分布調査の結果をふまえ、遺跡の保護活用をはかっていきたいと考えております。

最後に、各種便宜をはかっていただいた地元柏原財産区・池ノ平遺跡保存会に厚く御礼申し上げるとともに、今回の調査、報告書刊行において尽力いただいた調査団関係者に深く感謝申し上げる次第であります。

平成2年3月

茅野市教育委員会

教育長 両角 昭二

## 例　　言

1. 本書は、長野県茅野市北山御小屋之久保遺跡の詳細分布調査報告書である。
2. 発掘調査は、国庫及び県費の補助を受け、茅野市教育委員会が御小屋之久保遺跡試掘調査団を設置し行った。(名簿は別掲)
3. 発掘調査における事前の調査区設定については杭打ち作業を調査員の指導のもと中央航業に委託した。発掘調査は平成元年7月4日から8月12日まで行い、出土品の整理及び報告書の作成は平成元年8月15日から10月31日まで尖石考古館において行った。
4. 発掘現場における記録及び遺物整理は別掲の調査員及び作業員が行った。また、先土器時代の遺物実測・トレースについては森出版森山公一氏に依頼した。
5. 出土品、諸記録は茅野市尖石考古館で保管している。
6. 本文に引用した御小屋之久保遺跡の過去の調査における石器実測資料は『茅野市史』上巻による。
7. 本書の原稿執筆は、第Ⅰ章第2節・第Ⅱ章第1節を守矢昌文が、他を小林深志が行った。

## 目　　次

### 序 文

### 例　　言

第Ⅰ章　遺跡概観	1
第1節　御小屋之久保遺跡の位置	1
第2節　遺跡の考古学的環境	1
第Ⅱ章　調査経緯	8
第1節　調査に至るまでの経過	8
第2節　調査の方法と経過	8
第Ⅲ章　各調査区の概要	13
第1節　先土器時代	13
第2節　縄文時代以降	40
第Ⅳ章　結　　語	54

# 第Ⅰ章 遺跡概観（地理的位置と歴史的環境）

## 第1節 御小屋之久保遺跡の位置

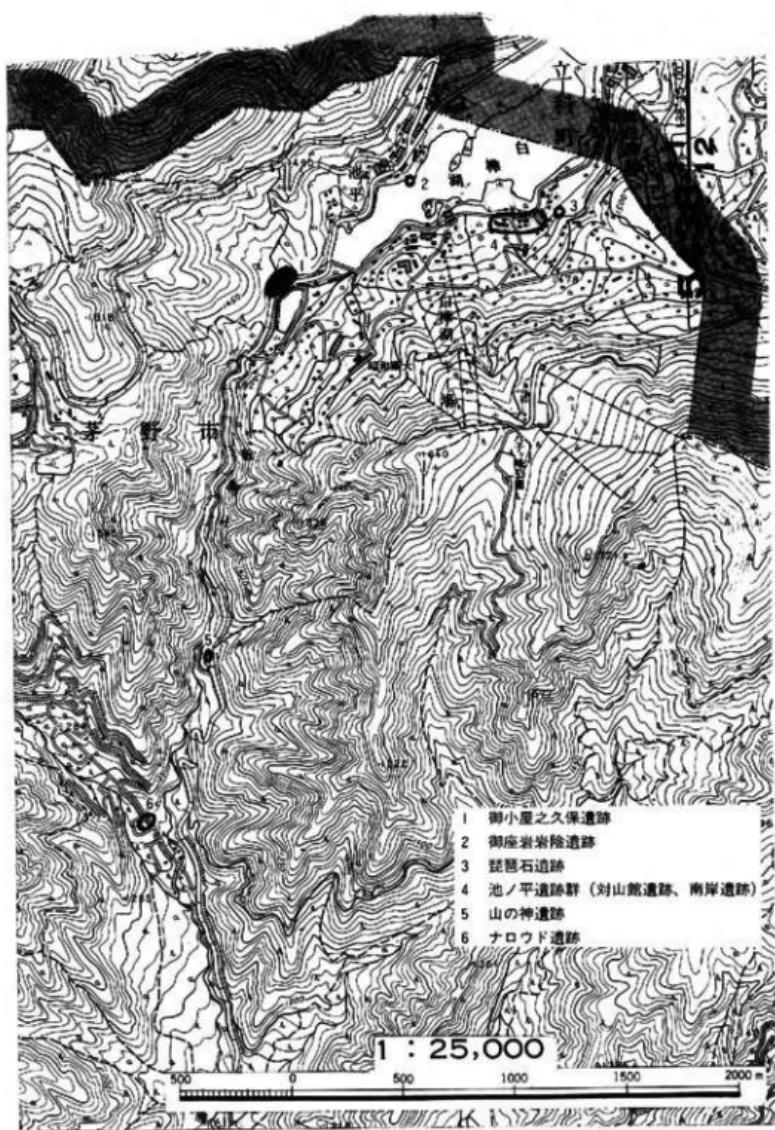
本遺跡は霧ヶ峰火山群の最南端に位置し、茅野市と小県郡立科町とを分ける、大門峠から南西へ約1km、白樺湖の南西に造られた人造湖である第二白樺湖の北側に位置する。南東へ傾斜する谷状地形の中の遺跡で、標高は1,410m～1,440mを測る。北側に白樺湖から車山に続くビーナスラインの料金所が見られ、南東方向には八子ヶ峰の後方に蓼科山を望むことができる。諏訪地方から白樺湖の北側を通り、大門峠、立科町、丸子町を経て上田市に至る、県道茅野・上田線（大門街道）がすぐ東側を通っている。下諏訪町から和田峠、丸子町を経て上田市に至る国道142号線と並んで東信地方へ通ずる主要幹線である。四季を通じた観光地をひかえる茅野市にあっても、東京へ延びる国道20号線（甲州街道）に次ぐ交通量を持っている。発掘調査前の6月中旬に訪れた時にはちょうどレンゲツツジがみごとな花を咲かせていたが、この一帯は白樺湖周辺で最もレンゲツツジの美しい所とされている。他にアヤメやキンポウゲも数株ずつかなり広い範囲で見受けられた。また、ワラビやウドなどもかなり豊富に採れる所でもあった。

## 第2節 遺跡の考古学的環境

池ノ平周辺遺跡の考古学的調査 御小屋之久保遺跡の立地する白樺湖周辺は霧ヶ峰火山群の車山山裾部と八子ヶ峰山裾部が接触し盆地状をなし、周辺からの湧水により池ノ平と呼ばれる沼沢地を形成していたが、土地所有者の柏原区が温水溜池の設置を該地に計画し、池ノ平耕地整理組合を守矢仁作氏を理事長として組織し、昭和15年3月に起工、昭和21年11月に竣工し現在の人造湖白樺湖が生れている。

池ノ平を水源とする音無川は車山山裾部を浸食し渓谷を形成している。この渓谷は、大門峠や兩境峠を越え八ヶ岳山麓から小県・上田方面、佐久方面に通じる交通の要路であり、音無川沿いには仮泊に利用されたと思われる棚窓岩陰遺跡などがあり、先土器時代から江戸時代に亘る遺物が出土している。池ノ平には御座岩岩陰遺跡があり、神祭紀に關わる剣先形石製模造品が出土しており、この地が古代の往来に関わっていたことがわかる。また、御座岩周辺からは先土器時代から中世に亘る遺物が出土しており、この地が時の高地交通の要衝であったことを物語っている。御座岩岩陰遺跡は昭和27年から29年にかけて宮坂英式氏等により調査がなされ、遺跡の内容が明確になり昭和39年には長野県史跡に指定されている。

御座岩岩陰遺跡の発掘調査を契機に地元柏原区では池ノ平周辺の遺跡保護保存のために池ノ平遺跡保存委員会を設け、周辺遺跡の発掘調査を行い、池ノ平周辺には対山館、南岸、琵琶石、御小屋之久保遺跡や他にも黒曜石が散布する地点が各所に発見され、湿原を取りまくように遺跡群

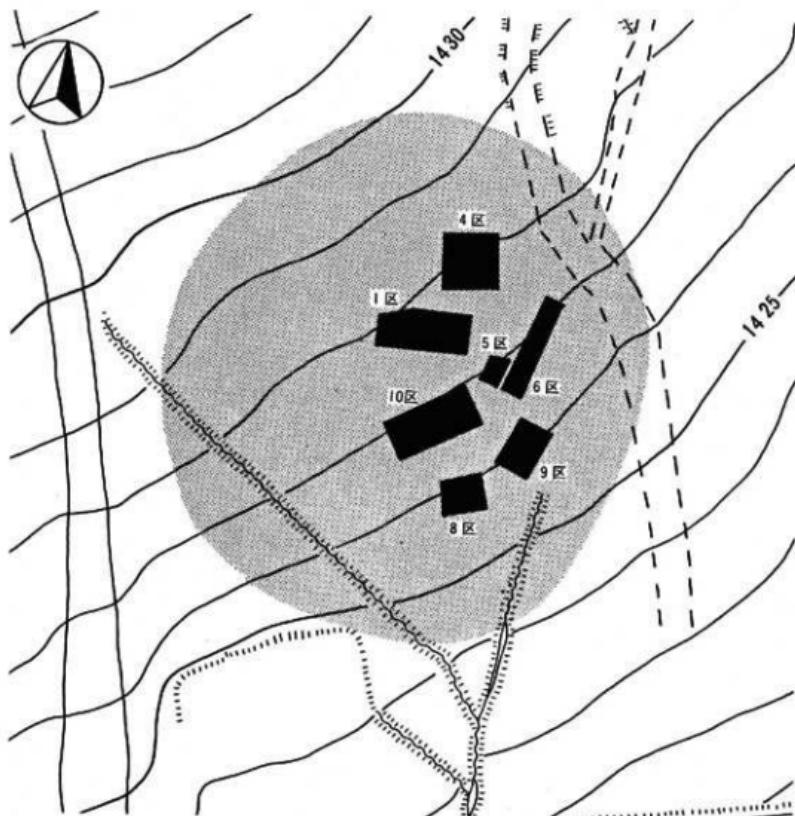


第1図 遺跡の位置 (1/25,000)

が形成されていることが把握されている。

対山館遺跡は池ノ平周辺では最も高地に立地し、標高1,436mを測る。本遺跡は池ノ平遺跡群の中で最も古い時期に属すると思われる未発達のナイフ形石器を出土している。調査は約4m<sup>2</sup>と狭い範囲であったが、遺物はある程度のまとまりを呈し、ナイフ形石器を中心とするブロック、剝片を中心とするブロックの二カ所が把握されている。

南岸遺跡は池ノ平南岸の小規模な尾根状斜面に位置し、標高は1,425mを測る。3回に亘る調査により、石器、刀器状剝片、石核等202点が検出されている。調査は尾根状台地の先端部の一部に3カ所の調査区を設け行われている。各調査区により石器組成に異なりがみられるが、基本的に槍先形尖頭器・ナイフ形石器を中心とする文化をもつ遺跡であろう。しかし、冷山・麦草峠産



第2図 過去の調査の発掘設定図 (1/500)

の黒曜石を用いた、素材への変形度の少ない刺突形のナイフ形石器や長さ7~8cmの刃器状剝片などは出土層位等を考慮すると、槍先形尖頭器を伴うナイフ形石器とは分離すべきで、南岸上層・下層石器群に分けることが可能である。

御小屋之久保遺跡の考古学的調査 池ノ平遺跡保存会と尖石考古館が昭和28年より行っていた池ノ平周辺の考古学的調査の一環として、昭和35年より御小屋之久保遺跡周辺の調査に入っている。調査の経緯、概要について報告書『夢科』(宮坂他1966)に沿って概略をまとめる。

調査は昭和35年(第1次)、昭和36年(第2次)、昭和37年(第3次)に亘り10カ所の調査区約228.5m<sup>2</sup>を発掘している。

昭和35年6月に調査区確定するため御小屋之久保遺跡西側の尾根を越えた平坦部や、遺跡周辺に試掘溝を設け遺跡の広がり、遺物包含の状況の把握に努めている。この結果西側の尾根を越えた平坦部よりは土師器片、織文土器片が出土、また、現在史跡として保存されている範囲に先土器時代の遺物包含層が確認され本発掘に入った。本調査は7月25日より行われ、トレンチI~IVを設定した。この結果トレンチIより石器製作台と思われる扁平礫、トレンチIVより炉に関わったと思われる2カ所の石圓い遺構が検出され、ナイフ形石器・石核・剝片が出土している。

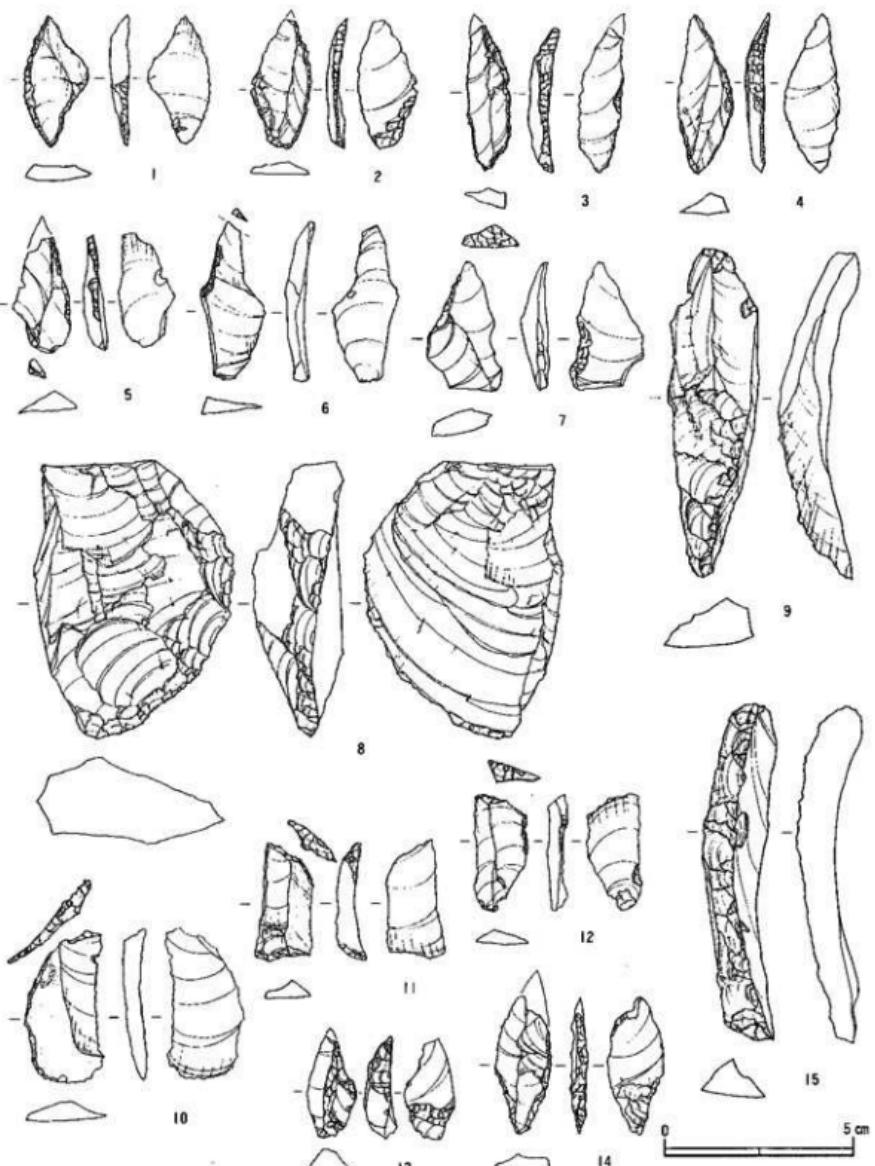
昭和36年の第2次調査は8月9日より数日行われたが充分な成果をあげることなく終了している。

昭和37年は三笠宮殿下もおいでになり最も規模の大きな調査が実施され、トレンチV~Xが設定された。この調査により多量の石器が出土した。同年4回目の調査が8月7日より実施され、トレンチXまでを完掘し調査を終了している。

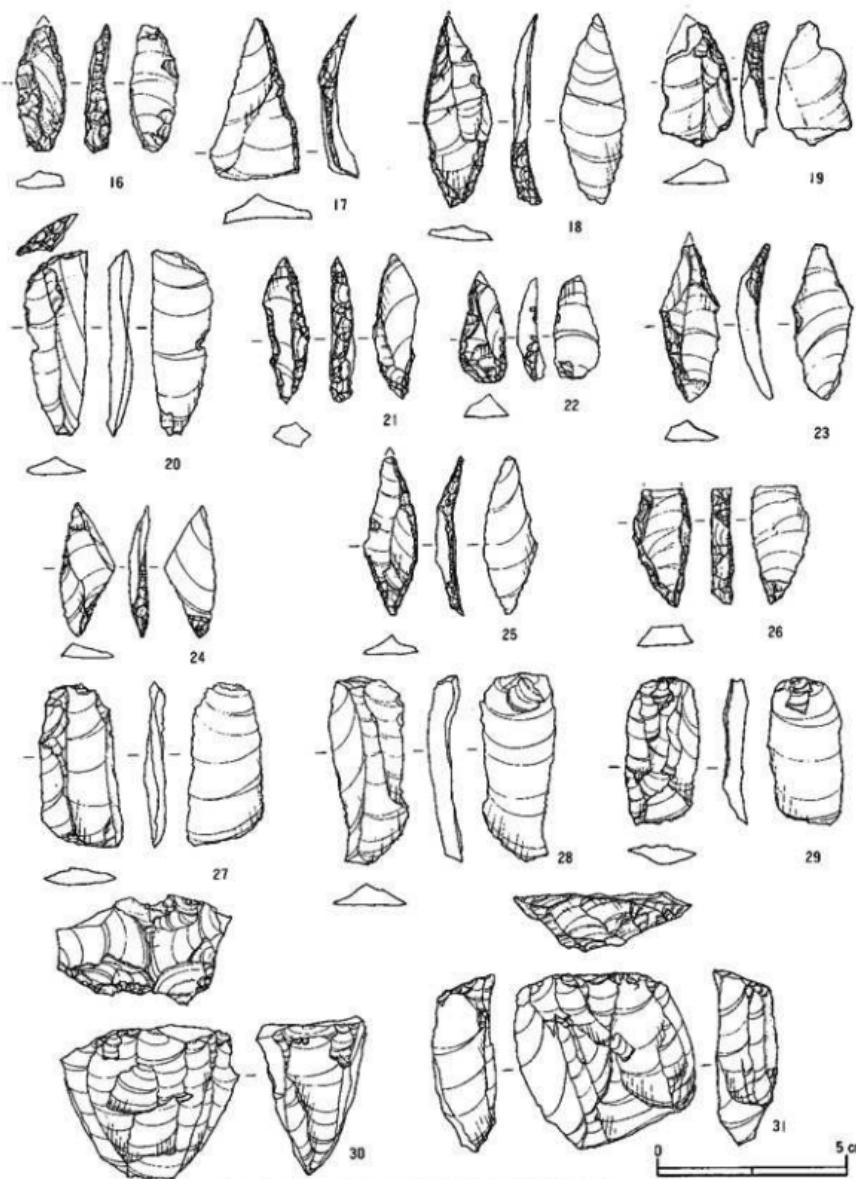
4回に亘る調査により遺物包含層が明確になっている。調査区が緩斜面より平らになりかけた部分に設定された関係より各調査区に於いて土層の厚さに若干の異なりがみられるが、基本的に次のようになる。第1層は黒色土層で厚さ40~50cm、第2層は漸移の褐色土層で厚さ10~20cm、第3層は黄褐色を帯びた軟質のローム層で以下は細砂粒を混入したローム層となる。遺物の包含層は第2層下層、第3層上層とにみられ、遺物の集中する部分はローム層の深さ20cmの範囲であった。

人為的な遺構としてトレンチIに石器製作台と思われる扁平な疊と、その周辺には石核・剝片が集中して検出されている。トレンチIVには2カ所の石圓い遺構が検出されている。第1石圓い遺構は径115cmの円形の範囲に15~20cm大の礫を9個配している。第2石圓い遺構は径70cmで石圓い内に焼石1個と、周辺より木炭粒が出土していることにより、調査者の宮坂英式氏は「これを炉址として俄に断定し得られない迄も、当時の生活遺構らしきものとして極めて重要な資料であろう。」と述べている。

遺物は刃器866、石核112、ナイフ形石器84、槍先形尖頭器4、搔器、削器、彫器、揉錐器等が出土している。特にナイフ形石器、刃器、石核、剝片が多いことに特徴がある。ナイフ形石器は1個縁加工、2個縁加工、部分加工が認められ、特に2個縁加工のものは、刃器の両端を斜状に切断し



第3図 過去の調査により発見された遺物(1) (2/3)  
(1~9は1区、10~12は4区、13~15は5区)



第4図 過去の調査により発見された遺物(2) (2/3)  
(16・17は8区、18・19は9区、20~22は10区)

形状を定め、切断部に刃潰し加工を加える所謂茂呂系ナイフ形石器に属する。刀器は長さ3~4cm前後のものが最も多く、その多くが調整打面をもつ石核より規則的に剥離された規格性の強く、ナイフ形石器の素材に用いられるものであろう。これらの石器群より考えると、遺跡内で石核より剥片の生産→剥片を素材にしたナイフ形石器の製作と言ふ一連の作業が想定でき得る。

遺跡は先土器時代の生活を明確する上に重要であると共に、ナイフ形石器を指標とする標式的な遺跡であると高い評価を受け市史跡に指定され、地元柏原区の熱意により、1,590m<sup>2</sup>が史跡保存地区として管理され、また遺物は池ノ平周辺遺跡の遺物と一緒に白樺湖遺跡保存館に保管展示されている。

**過去の考古学調査の成果と課題** 昭和28年より続けられてきた池ノ平周辺遺跡群の調査により、多くの学間的成果が得られている。その成果は『蓼科』に記されているが、それによると、池ノ平の先土器時代の遺跡群は黒曜石原産地を背景とした黒曜石搬出基地としての性格が考えられており、また、石器組成等により対山館、南岸、御小屋之久保、御座岩陰遺跡と石器群が変遷していくことも指摘されている。

以上のような成果を踏まえ、昭和61年に編纂された『茅野市史上巻』に於いて斎藤幸恵氏は(斎藤、1986)、池ノ平遺跡群の石器群、遺跡の構造に詳細な分析を加え、より池ノ平石器群の石器の変遷、性格を明確にしている。石器の変遷は宮坂氏の案と基本的には同様であるが、南岸遺跡の石器群を上・下層に分離し、古いタイプのナイフ形石器(下層)と隆盛期のナイフ形石器(上層)の段階認定を行っている。また、御小屋之久保遺跡より得られた情報を分析し、遺跡内の一定のブロックが構成され、これらのブロックには一連の石器製作の工程に関わる石核、素材、多量の調整剥片、碎片が認められていることにより、各ブロックで原石から石器にいたるまでの石器製作が行われていることを指摘している。尚、これらの各ブロックは石器群の出土量の比較よりすべてのブロックで同等の作業が行われたのではなく、作業内容に違いがあることが想定されている。このように御小屋之久保遺跡より得られた情報は先土器時代の集団の有り方や、製作活動の復元に貴重なものである。

また、池ノ平周辺の遺跡を一つの群として捉え、同様な地形条件に立地する八島湿原周辺、池のくるみ周辺、車山湿原周辺等の遺跡群について湿地等をめぐる遺跡群とグルーピングを行い分析が行われており(大竹、1989)、先土器時代の遺跡群の有り方を考える上にも池ノ平周辺の遺構は重要な役割を果している。

今後黒曜石原産地と池ノ平遺跡群との関係、各遺跡の面的な広がりと遺物包含層の的確な把握、石器群の編年的な位置等数多くの課題が過去の調査により指摘されており、これらの問題について今後の調査に期待したい。

宮坂英也、他 1966 『蓼科』

斎藤幸恵 1986 「第1章第5節 先土器時代の茅野」『茅野市史上巻』

## 第II章 調査経緯

### 第1節 調査に至るまでの経過

御小屋之久保遺跡の位置する白樺湖周辺は、八ヶ岳中信高原国定公園の一部に当り、近年のリゾート地開発ブームにより急速に開発が進んでいる地域である。このような地域に於いて御小屋之久保遺跡の位置する車山東側裾部は唯一開発の進行していない場所として自然環境が保たれていた。

遺跡は昭和35年より37年の間4回に亘る発掘調査が行われ、旧石器時代の重要な遺跡であることが認識されていたが、周辺が原野・山林であることなどにより遺跡の広がりや規模を把握するには至ってはおらず、詳細分布調査を行う必要性が生じていた。そこで御小屋之久保遺跡の保護・保存のための基礎資料を得るために詳細分布調査を実施することを決定し、昭和63年12月22日付63教社第464号「昭和64年度文化財関係補助事業計画」により事業計画を提出した。

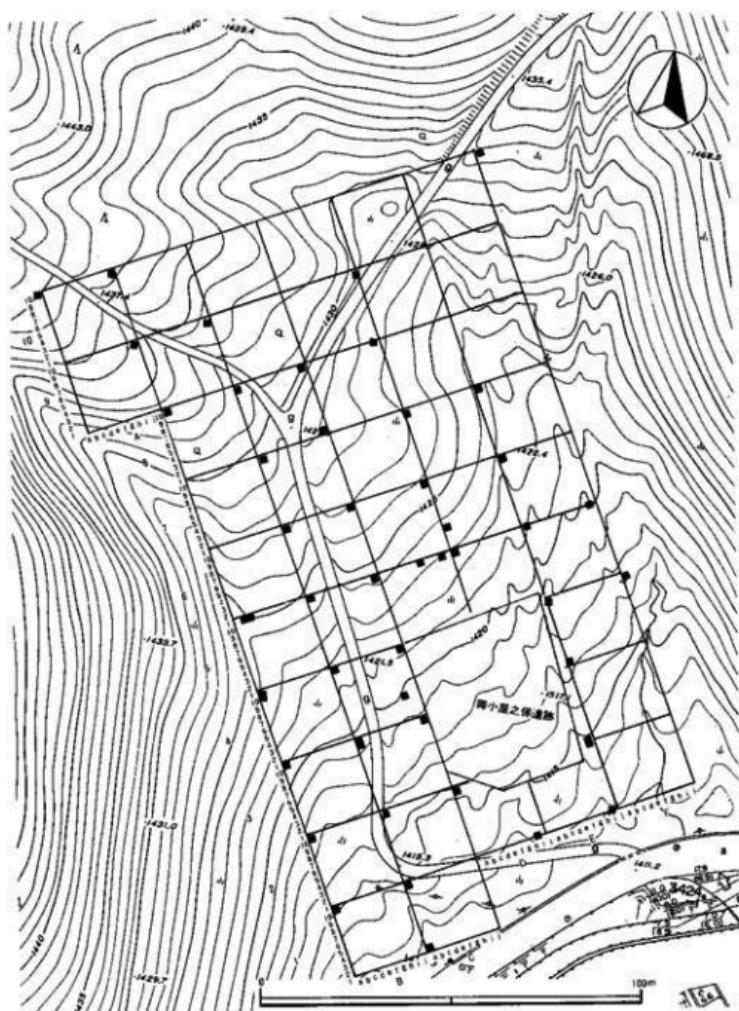
平成元年5月23日付元教文第94号「平成元年度文化財関係国庫補助事業計画の内容について」(通知)を受け5月22日付元教生第105号「平成元年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書」を提出し、事業費3,134,083円で事業を行うことで、事業開始に備えた。6月に入り埋蔵文化財発掘調査の通知。御小屋之久保遺跡試掘調査団を茅野市教育委員会で組織し、7月4日より試掘調査に入った。

試掘調査は遺跡の立地すると思われる割合平坦な緩斜面約24,000m<sup>2</sup>に遺跡の範囲確認を目的に調査を実施した。

### 第2節 調査の方法と経過

#### 調査区の設定と調査の方法

本遺跡は南東に傾斜する大きな谷状を呈する地形上に位置しているため、調査区を東西南北にこだわらず、地形に沿って設定している。また、調査対象となる面積が約24,000m<sup>2</sup>と非常に広いため、20m四方を1単位とする大調査区に分け、南北隅を起点として、東西を大文字のアルファベット、南北を数字で呼称した。また、その20m四方の大調査区を、2m四方の小さな小調査区に分け東西をa～jの小文字のアルファベット、南北を1～10の数字で呼称した。したがって、2m四方の一つの調査区は、例えばA-1-a-1、B-5-j-10のように表記する。以後、本文中では特に断わらない限り、調査区とは小調査区のことである。なお、南北の軸線方向はN-29°14'56"-Wを指す。また、今後も今回の調査と調査区を同じにできるようにコンクリートの埋設杭を遺跡原点として2カ所設けた。



第5図 地形と発掘区域 (1/1,500)

調査は20m四方に設定した大調査区内に1カ所ずつ2m四方の調査区を開けることとした。しかし、調査の結果によって開発が中止されることも予想されるので、できるだけ樹木などの自然に影響を及ぼさないよう、隣の調査区を調査するなどの配慮をした。したがって、各調査区の間隔が場所によっては20m未満であったり、以上だったりする個所がある。また、実際に調査した調査区が、設定した調査区と離れているのも同様の理由による。なお、それによって複数の調査区にまたがって調査した個所もあるが、本文中の調査区の記載については、最も面積の広い調査区をもって呼称し、必要があれば他の調査区を付属調査区として列記してある。また、遺物の広がりを見るため、大調査区内にいくつかの調査区を設けた個所もある。

#### 発掘調査の経過

1989.07.04 (火) 曇り後雨

午前9時より宮坂教育次長出席のもと調査団結団式を行った後、早速調査にはいる。まず遺跡内の土層の堆積状態を見るため、C-2-a-10区を重機で掘り下げ始めたが、黒曜石の剥片が1点採集され人力による掘り下げに切り替える。約40cmの表土の後、約40cmのローム漸移層と続きローム層となるが、30cmほどロームを下げるところで20~30cmの礫とともに黒曜石の剥片が出土し始める。地表面からは約1.1mほどになる。

同時にB-2-a-10、C-3-a-10、D-2-a-10、D-3-j-10、C-4-j-10の掘り下げを行うが遺物の出土無し。

昼頃から時々雨3時30分頃雷を伴う上砂降りで作業中止。解散は4時過ぎ。

1989.07.05 (水) 晴れ一時雷雨

昨日に引き続き調査区の掘り下げを行う。前日遺物の出土した、C-2-a-10区の北壁清掃と写真撮影、実測。C-3-a-10区では表土層の下、黒色土と小石の混じり合った黒色土層から押型文と思われる土器片を1点採集。C-4-a-10区は、黒色土と小石の混じり合った層が見られ、その黒色土の中から黒曜石の剥片が2点出土した。

1989.07.06 (木) 晴れ

各調査区を掘り下げるとともに、小林立会いのもとに、重機による黒土層掘り下げ、ローム漸移層面での縄文時代以降の遺構の確認、先土器時代の遺物包含層の有無の確認を行う。

C-1-a-10区は黒色土を剥いだ後漸移層となるが、黒曜石の遺物が出土し始める。総計7点。礫混じりのロームまで遺物が続く。C-4-j-10区で遺物が出土しているため遺物の分布を見るため新たにC-4-g-4区に調査区を設ける。ローム中より黒曜石片1点出土。C-4-j-10区でもローム中より黒曜石片1点が出土した。E-5-a-10区も黒土層下位、及び漸移層から黒曜石の出土があり、以下に期待する。

1989.07.07 (金) 晴れ

各区掘り下げと、遺物出土区付近の拡張、遺物取り上げを行う。遺物の出土したE-5-a-10区周辺の遺物の分布の広がりを見るため3カ所調査区を拡張する。C-1-a-10区の遺物出

上状態写真撮影、実測。E-5-a-10区も昨日に引き続き遺物の検出につとめる。親指大のブレイドが多数出土。コアも多いが、チップなどの出土は全く見られない。遺物出土状態の写真撮影を行う。

1989.07.08 (土) 晴れ

各調査区の掘り下げ、遺物の取り上げを行う。E-6-a-4区はロームの掘り下げを行う。礫の頭と同レベルで黒曜石片が3点出土。E-5-a-10区は遺物の取り上げを行う。黒曜石片の出土は総計50点に及ぶ。漸移層の下のロームは今の所2層に分けることができる。上の層は小石粒を含むもので、下の層は小石粒の他微細な白色の粒子を含む層である。下の層は上の層に比して粘性が強い。出土の状況は、漸移層から3点とロームの境からは僅かで、下位のローム中からが最も多い。遺物は親指大のブレイドの出土が目立つ。

1989.07.10 (月) 雨

雨の中、崩落の危険のある土層断面図の作成を行う。

1989.07.11 (火) 晴れ一時小雨

E-5-a-10区は遺物が大量に出土した白色の微粒子の層が終わり、比較的黄味の強い層に変わったが、そこから1点黒曜石が出土した。文化層がもう一枚ある可能性があり、更に20cmほど掘り下げるが、遺物の出土はなかった。いずれにしろ先の包含層よりはかなり下に当たり、層位も異なるため、広い範囲での確認が必要となる。E-6-a-4区も黒曜石が新たに1点出土し、総計4点になった。層位的にはE-5-a-10の白色の微粒子を含む層に達したばかりなので、さらに掘り下げが必要。かなり大きな礫が出ており、明日遺物取り上げ後検討。

1989.07.13 (木) 雨

雨の中、崩落の危険のある土層断面図の作成を行う。

1989.07.14 (金) 晴れ

各調査区の掘り下げと、作図を行った。E-5-a-10区の土層断面の追加分を作図。最後の遺物取り上げ。E-6-a-4区は遺物取り上げ後、礫混じりのロームを掘り下げる。E-5-a-10区と同じような微細な白色粒子を含む層が特定できないまま1m50cmほどの深さとなる。南西隅だけ礫の混じらない層があるため、そこだけもう少し掘り下げることにする。

1989.07.15 (土) 晴れ

各調査区の掘り下げを行う。D-5-h-10区は包礫層（微細な白色粒子を含む層）の上から1点、下から10点黒曜石片が出土。50×60cm程の一つのブロックになるか。従来の出土層よりもさらに古い文化層があることを確認。C-8-j-1区の端よりコア1点出土。その後砂混じり層まで掘るが、遺物は出土しなかった。A-10-j-10区は漸移層まで掘り下げる。礫が多い。フレイク3点出土。

1989.07.16 (日)

しばらくの間、調査を中断する事になり、遺跡内の安全対策を行う。

1989.07.31 (月) 晴れ

各調査区の掘り下げと遺物の取り上げを行う。D-5-h-10区は遺物出土状態写真及び取り上げ作業。

1989.08.02 (水) 晴れ

各調査区の掘り下げと図面作成を行う。

D-5-h-10区は土層断面図の作成。A-10-j-10区でさらに1点黒曜石出土。

1989.08.03 (木) 晴れ

各調査区の掘り下げと各調査区のBM計測を行う。A-9-j-10区は黒色土の下のローム、微細な白色粒子の入る層の上から黒曜石出土。E-2-j-1区は表土層よりチップが拾える。ロームを掘り下げるに黒曜石片が数点出土する。

1989.08.04 (金) 晴れ

各調査区の掘り下げと遺物出土状態写真、遺物出土状態図面作成を行う。また、各調査区の土層断面柱状図を作成終了。E-2-j-1区の遺物出土状態写真、遺物取り上げを行う。

1989.08.05 (土) 晴れ

各調査区の掘り下げを行う。B-9-j-10区で黒曜石片1点出土。D-2-j-1区は漸移層を過ぎて、ロームになったところから黒曜石片が1点出土。直下は大礫が非常に多い。遺跡原点となる基本杭の埋設に来る。

1989.08.07 (月) 晴れ

各調査区の掘り下げを行う。C-3-a-10区の北壁土層断面図、平面図作成。茅野市文化財審議会見学。

1989.08.08 (火) 快晴

各調査区掘り下げ、遺物取り上げと各調査区の平面図の作成を行う。また、遺跡遠景写真を撮影する。B-4-a-10区は礫などの混じりがなく、きれいなロームが堆積している。ローム中から黒曜石片が1点出土した。B-4-a-10から遺物が出土したこと、中央の台地ばかりではなく、沢をはさんで西の斜面にも遺跡の広がりが確認された。C-6-j-9・10区の土層断面図、北壁と西壁を作成。

1989.08.09 (水) 晴れ

各調査区の掘り下げと各調査区の平面図を作成する。

1989.08.10 (木) 晴れ

各調査区の掘り下げと各調査区の平面図を作成する。B-4-a-10区の遺物取り上げ、北壁土層断面図作成。

1989.08.11 (金) 晴れ

各調査区のため押し確認調査を行う。C-2-a-10区から遺物7点出土。C-4-g-4区では遺物9点出土（総計10点）。調査終了調査区から重機が入り、埋め戻し作業にはいる。

1989.08.12 (土) 晴れ

各調査区のため押し確認調査と遺物出土状況写真撮影及び、図面作成。C-2-a-10区では砾混じりロームの間から、黒曜石片が50点以上出土。廃土を捨てるために拡張するが、ローム中から黒曜石が1点出土した。遺物出土状況写真撮影と図面作成を行う。C-4-g-4区は遺物出土状況の写真撮影と図面作成。各調査区の埋め戻し作業を行う。最後にプレハブ内の片付け及び収蔵庫への搬出を行い調査を終了する。

#### 遺物整理の経過

発掘調査終了後、8月15日から10月31日までの間、他遺跡の発掘調査期間を除き、尖石考古館で遺物洗浄・注記・図面整理等を行い、その後調査員が図版作成・原稿執筆を行った。本文の執筆分担については、別記する。

## 第III章 各調査区の概要

### 第1節 先土器時代

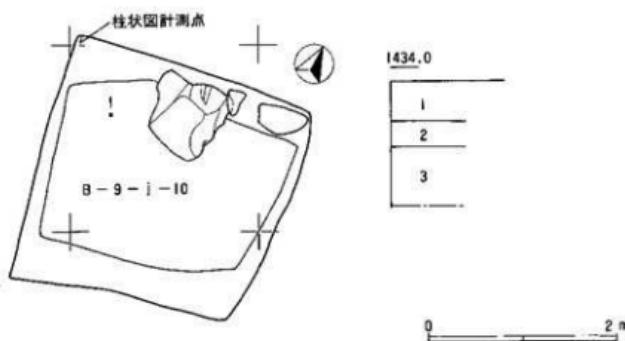
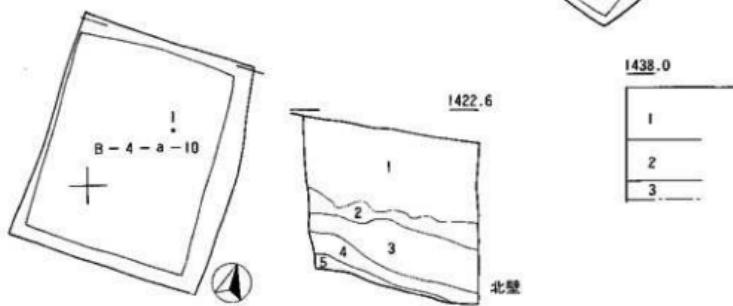
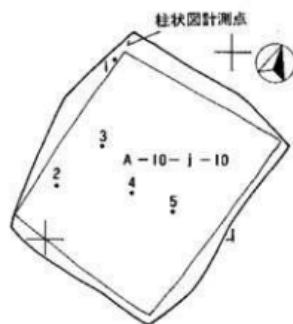
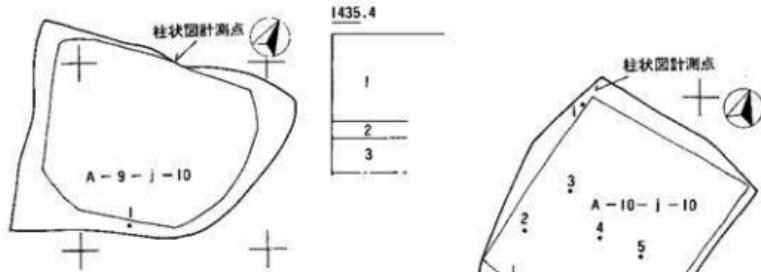
今回の詳細分布調査で調査区を設けたのは対象面積約24,000m<sup>2</sup>に66カ所であるが、すでに市の史跡として指定されている範囲を省いたことにより、総計62カ所を調査対象とした。この中にも樹木等の関係によって調査が出来なかつた個所もあり、また、遺物の分布範囲をみるために新たに追加した所もあるので、実際に調査した調査区は46カ所である。調査した46の調査区内、遺物の出土した調査区は21カ所であるが、そのうち地表での採集、表土層からの出土であった調査区を除くと17カ所の調査区で出土状態を明らかにする形で、遺物の検出を見た。ここでは遺物の出土した調査区及び遺構の検出された調査区について述べる。それ以外の調査区については、別に記した一覧表を参照されたい。土層の堆積状態及び遺物の出土状況等については、各調査区によって様々があるので、遺物の出土した調査区について、各調査区ごとにみてみたい。

#### A-9-j-10区（付A-9-i-10）（第6・7図）

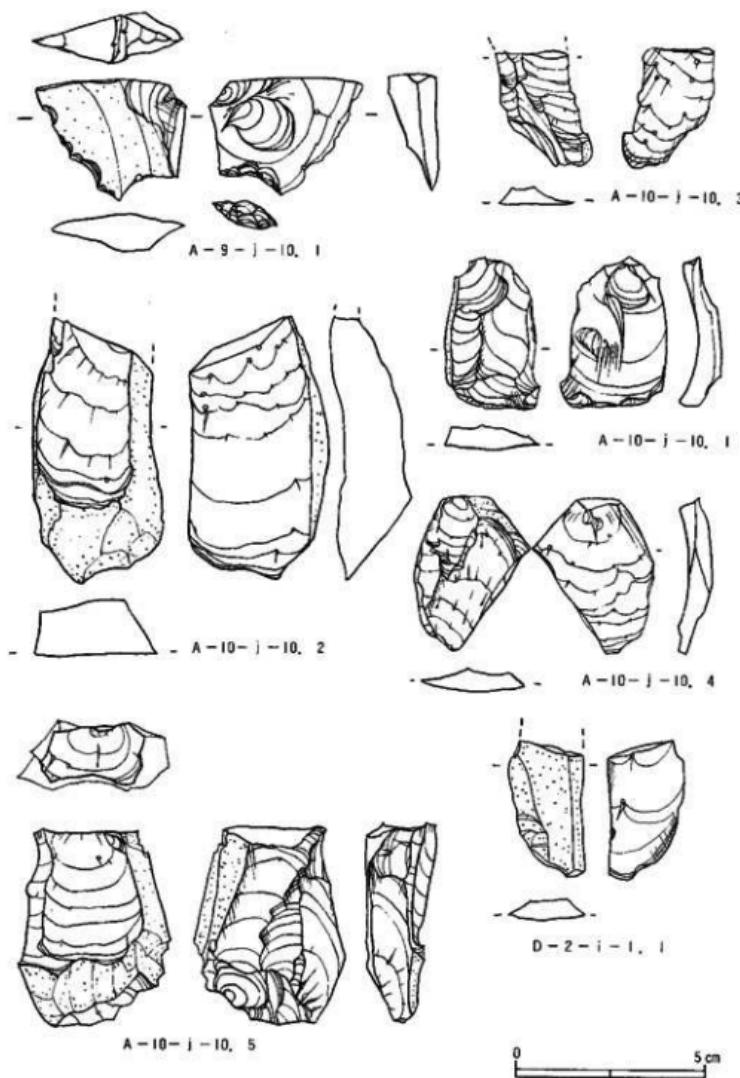
調査対象地域の北西隅にあたり、地形的には、遺跡の東西両端にある沢から中央よりに上がった所に位置する。1層は表土層で、層厚90cm程、以下2層が20cm程の層厚の礫を含まないローム、3層が礫及び砂利混じりのロームと続く。この層には微細な白色粒子を混入する。遺物が出土したのは第2層である。

#### A-10-j-10区（付A-10-i-10）（第6・7図、図版2-1, 9-1）

A-9-j-10区と同じく、調査対象地域の北西隅にあたり、今回の詳細分布調査で設定した調査区で、遺物の出土した調査区としては最北端に位置する。1層は表土層で、黒色を呈する。層厚は55cm程で、径50cmを超える大礫を含む。2層はにぶい暗灰褐色を呈し、層厚45cm程を測る。20cm程の礫が非常に多く、間にロームが充填されているかのようである。遺物が出土したのは、本層中で



第6図 A - 9 - j - 10・A - 10 - j - 10・B - 4 - a - 10・  
B - 9 - j - 10区 (1/60)



第7図 A-9-j-10・A-10-j-10・D-2-i-1区  
出土遺物 (2/3)

も上層に限られている。3層は微細な白色粒子、1~2cmの小石粒を含む他、礫が少量混入する。

B-4-a-10区(付B-4-a-9)(第6・9図、図版2-2)

今回の調査区域では、多くの遺物が東西の沢筋の間にさまれた調査区から出土しているが、本調査区は、西側の東へ傾斜する斜面に位置しており、本遺跡が西傾斜面にまでも広がる可能性を示した唯一の調査区である。多くの調査区が大小を問わず多くの礫が混入する層序を示すなかで、礫の混入のない、きれいな堆積状態をしている。1層の表土は黒色土で、層厚は80cm程を測る。2層はローム漸移層で、層厚30cm。3層は層厚20~50cmの灰褐色~暗褐色のローム。4層は層厚20~30cm程の赤褐色のローム。5層は黄褐色のロームである。遺物の出土を見たのは3層の灰褐色から暗褐色を呈するローム中である。

B-9-j-10区(第6・9図)

前述したA-9-j-10区の20m東側に位置する。1層の表土層である黒色土層の下部より20cm大の礫が多量に混入する。稀に70cmを超える大礫の混入を見ることもあり、第2層にまでおよぶ。層厚は40~50cmを測る。2層は層厚30~40cmを測るに近い暗褐色のロームで、出土した遺物はこの層の中位から出土した。3層は暗褐色の軟質のロームで、70cm程掘り下げたが遺物の出土はなかった。

C-1-a-10区(第8・9図、図版3-1・2)

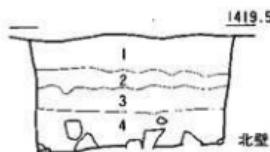
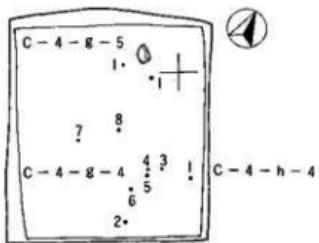
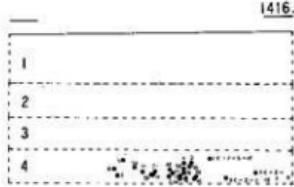
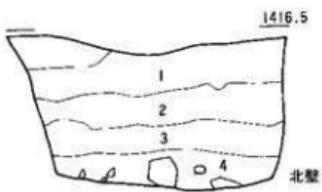
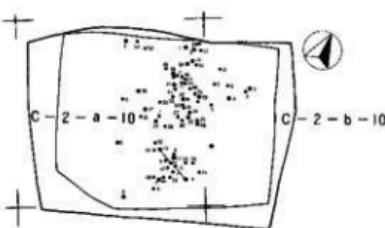
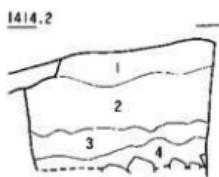
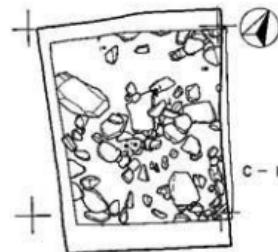
調査区域の南西にあたり、遺物の出土した調査区としては最南端に位置する。1層は礫と小礫、砂の混じりあった土層で2層の黒色土が表土層である。ローム漸移層である3層の黄褐色土から4層の黄褐色を呈するローム層上層にかけて遺物の出土がみられた。4層のロームには30cm程の礫が多く混入するが、遺物はその礫より同レベルか、やや高い位置からの出土であった。

C-2-a-10区(付C-2-b-9、C-2-b-10)(第8・10・11図、図版4-1・2、10-1)

前述したC-1-a-10区より20m北に位置する。また市の史跡として指定してある個所の南西隅からほぼ同一レベルで20m程西に離れる。1層は黒色土、2層のローム漸移層である黄褐色土を経て、IV層の黄褐色のローム下部から礫の混入するV層の上面にかけて黒曜石が出土し始める。当初礫混じりのローム上面が基盤であると考えていたため、10点程黒曜石が出土した時点で調査を終了していたが、各調査区の調査が進行するに従って、礫の混入する上層全般及びその下部からも遺物の出土することが確認され、調査終了直前になって再調査を行った。その結果総計76点の黒曜石の出土を見た。今回の調査中最も多量の遺物を出土した調査区である。遺物の出土が一度止まったため調査を終了したが、本調査の際には、さらに下層の文化層の確認を行う必要があるものと思われる。

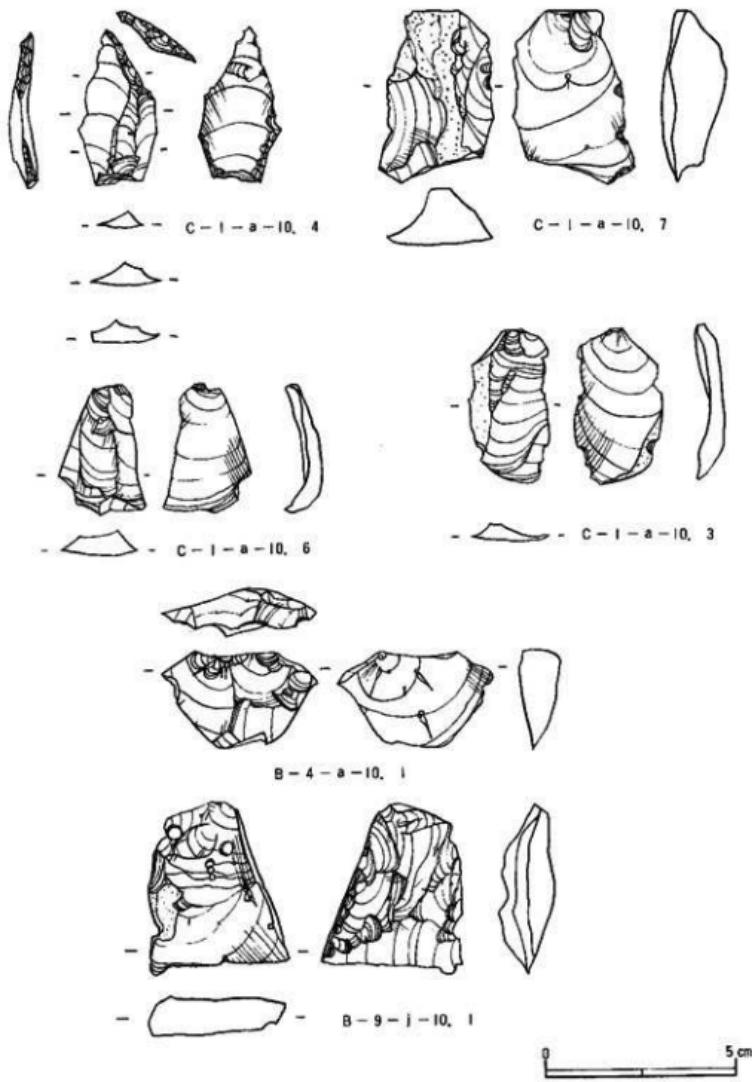
C-4-g-4区(付C-4-g-5、C-4-h-4、C-4-h-5)(第8・13図、図版5-2、10-2)

後述するC-4-j-10区で遺物が出土しているため、分布の広がりを見るために新たに設けた調査区。東へ6m程で市指定史跡の範囲となり、多くの遺物の出土が期待された。1層は黒色土、2層はローム漸移層で黄褐色土、3層は黄褐色のローム、4層は礫混じりのロームである。

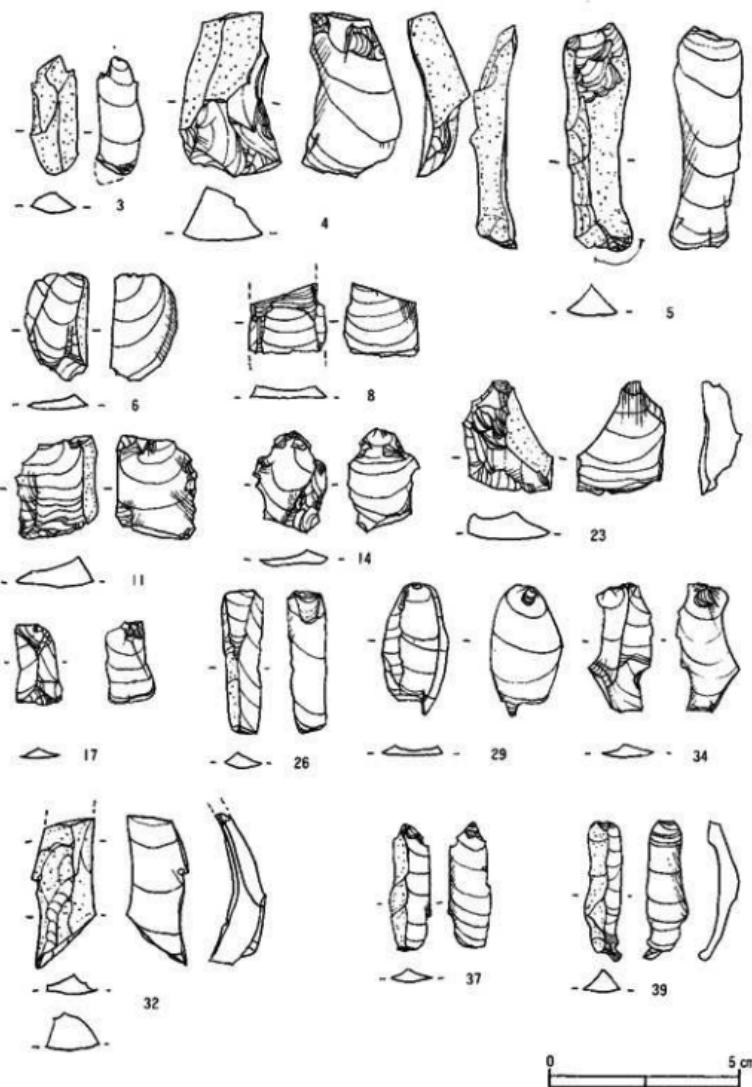


0 2 m

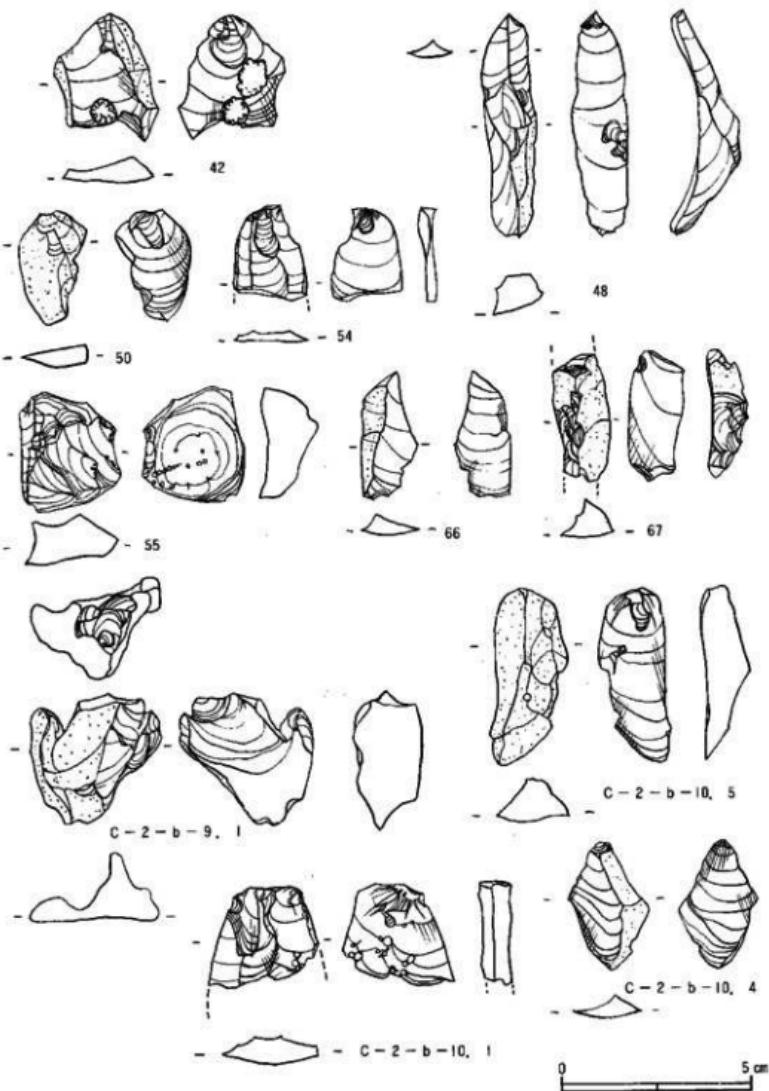
第8図 C - 1 - a - 10 · C - 2 - a - 10 · C - 4 - g - 4 区  
(1/60)



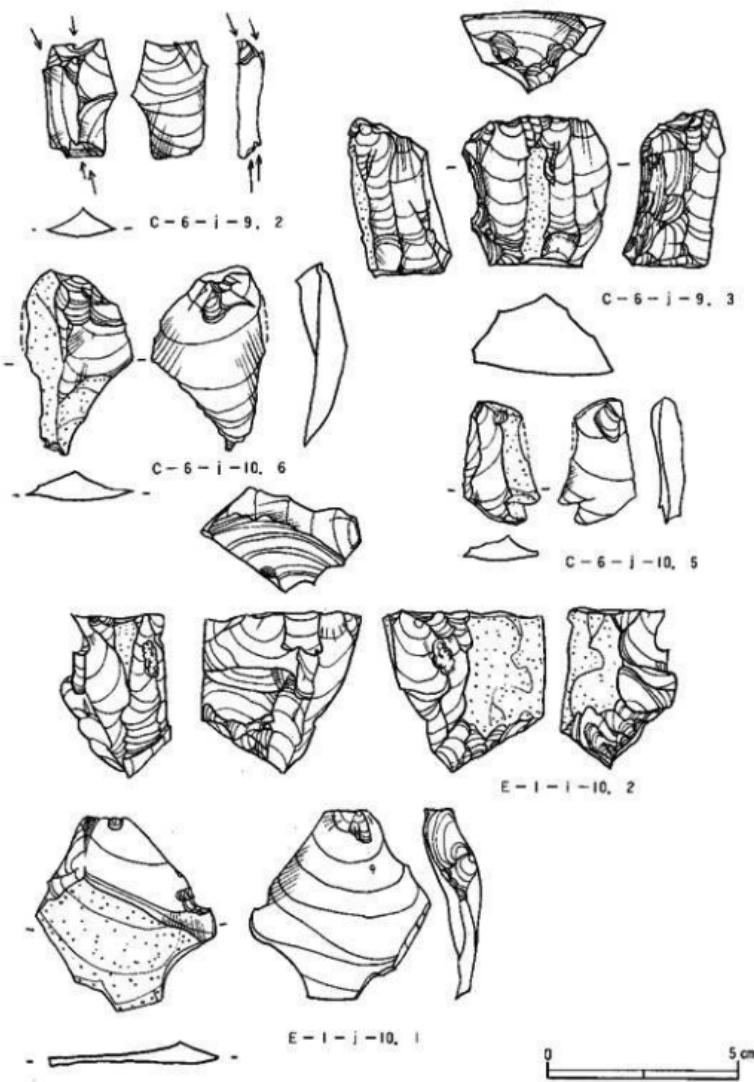
第9図 C-1-a-10・B-4-a-10・B-9-j-10区  
出土遺物 (2/3)



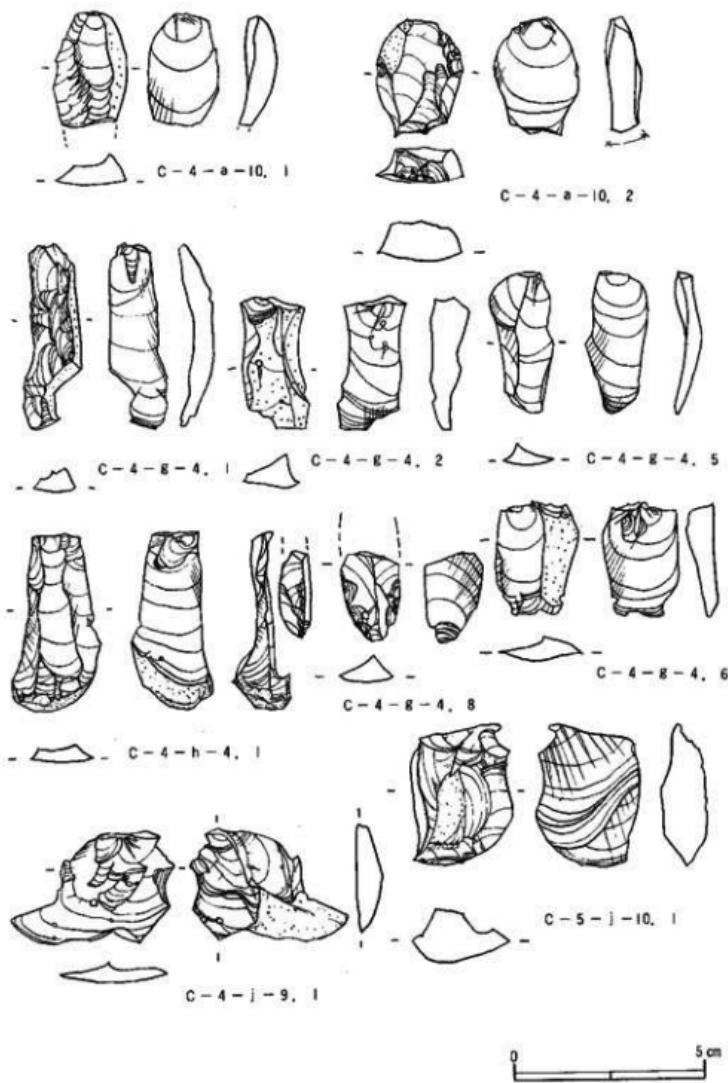
第10図 C-2-a-10区出土遺物(1) (2/3)



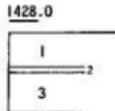
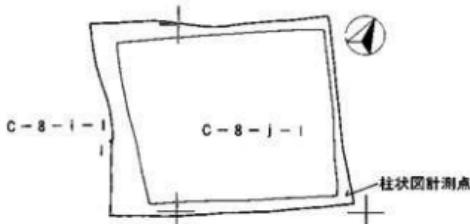
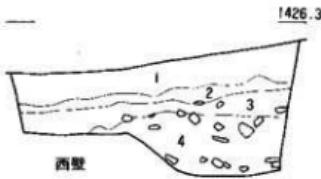
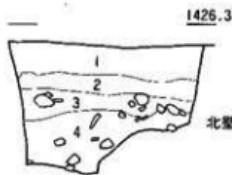
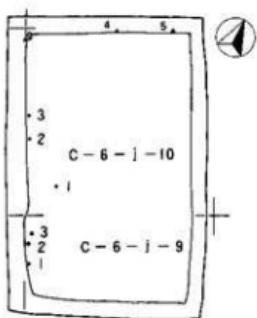
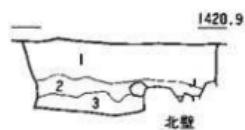
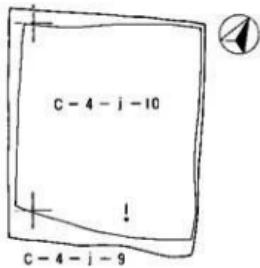
第11図 C-2-a-10 (C-2-b-9 + C-2-b-10) 区  
出土遺物(2) (2/3)



第12図 C-6-j-10 (C-6-j-9)・E-1-j-10  
(E-1-i-10) 区出土遺物 (2/3)



第13圖 C-4-a-10 · C-4-g-4 (C-4-h-4) ·  
C-4-j-9 · C-5-j-10區出土遺物 (2/3)



0 2 m

第14図 C - 4 - j - 10・C - 6 - j - 10・C - 8 - j - 1 区  
(1/60)

2層で黒曜石1点が出土したが、20~30cm程の層厚をもつ3層中に遺物の出土が見られなかつたため作業を中断していたが、調査終了直前に再調査を行つた結果礫混じりのローム（4層）中からさらに7点の黒曜石が出土した。層位的には、他の調査区より高い位置にあたると思われるので、本調査においては、さらに下層の調査が必要である。

C-4-j-10区（付C-4-j-9）（第13・14図）

市指定史跡の範囲の北西端に隣接する位置にある。1層の表土である黑色土を30cm程掘り下げると直ちに2層の礫混じりのロームとなる。礫の中には焼け礫も混入するが、自然によるものと思われる。この層中より黒曜石が1点出土している。さらに下層を20cm程掘り下げるが、新しい遺物の出土はなかつた。

C-6-j-10区（付C-6-j-9）（第12・14図）

層厚30cm程の黑色土の下に2層漸移層、3層礫混じりローム、4層礫層と続く。漸移層中より黒曜石1点を採集したため掘り下げを行う。漸移層、礫混じりロームから計8点の黒曜石の出土があつた。

C-8-j-1区（付C-8-j-1）（第14図）

30~40cm程の層厚をもつ表土から10cm程の層厚のローム漸移層、40~50cmのロームを経て白色粒子混じりのロームと続く。この層には拳大から20cm大の礫が混入する。黒曜石が1点出土したが、出土層位はロームである3層の上層である。

D-2-i-1区（付D-1-i-10, D-1-j-10, D-2-j-1）（第7・15図、図版7-1）

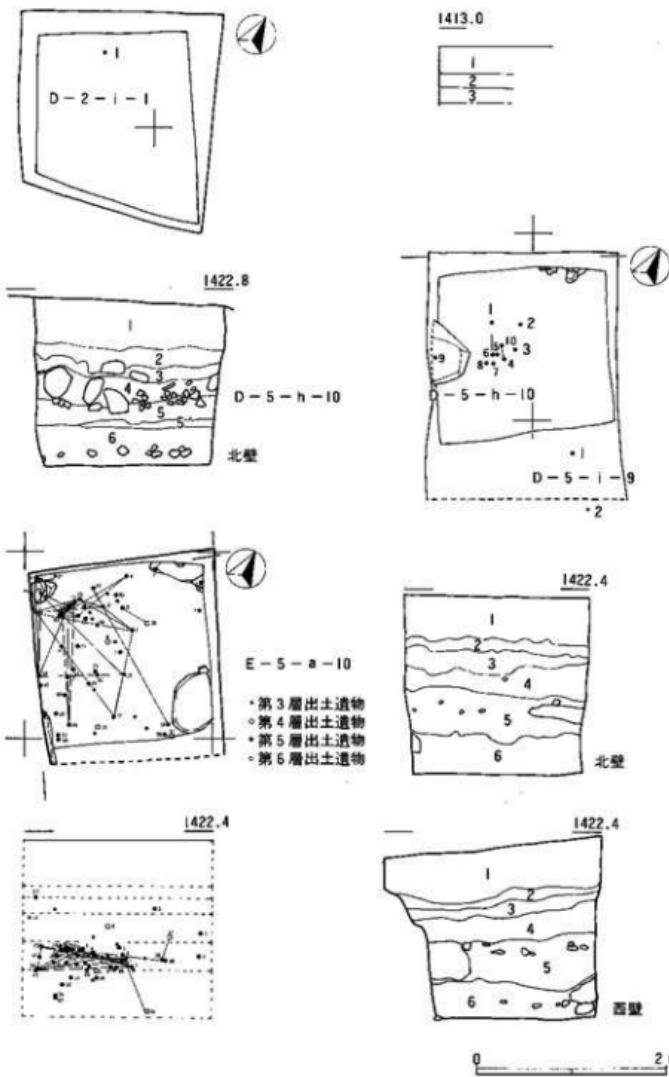
調査区域の南端に位置する。1層は表土で30cmの層厚を測る。2層は層厚15cm程のローム漸移層、3層がローム層である。遺物は漸移層を過ぎて、ロームになったところから出土している。ローム直下は大礫が非常に多く、掘り下げが困難となつたため調査を断念する。

D-5-h-10区（付D-5-h-9, D-5-i-9, D-5-i-10）（第15~18図、図版6-1, 11-1）

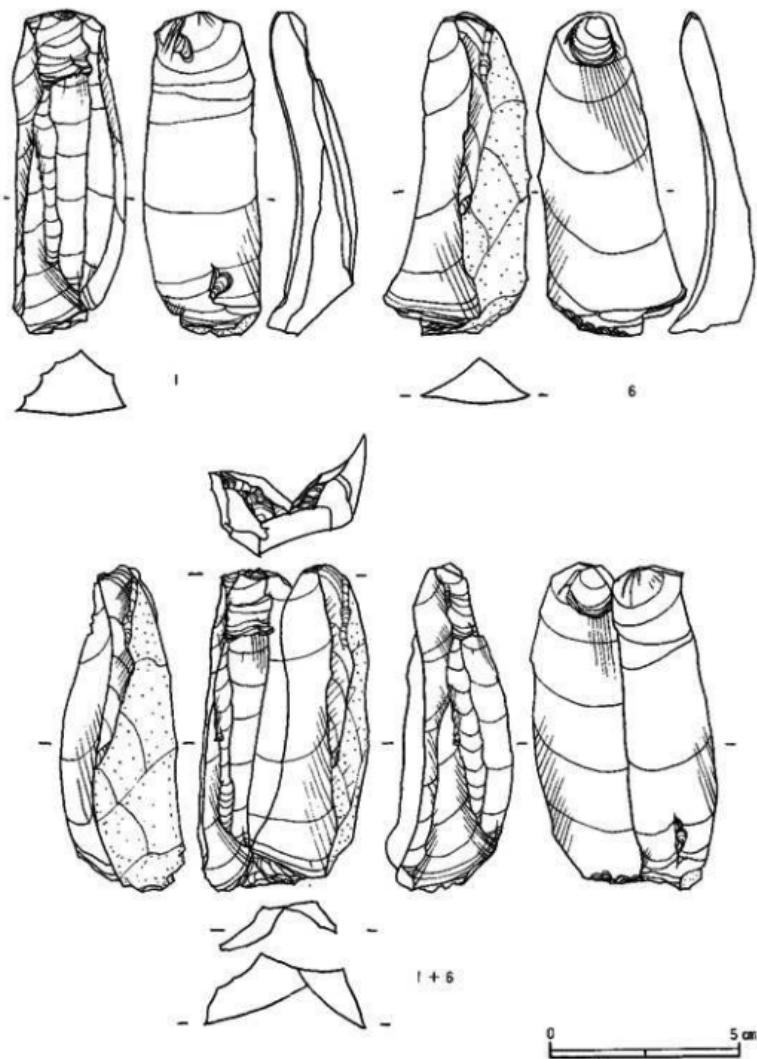
後述するE-5-a-10区で多量に遺物の出土を見たため新たに調査区を設けた。層位的にはE-5-a-10区と同様に思われるが、詳細な記述は参照されたい。なお、本調査区の場合、3層と4層の中間に拳大から40cmの礫を含む層が見られる。礫層として分離できなくもないが3層と4層で土層が明確に分類できるので単独の層としては扱わなかつた。また4層は、西壁で見る所と南に行くに従つて層厚が厚くなり、60cm程になる。また、混入する礫が大きくなり量も多くなる。また5層と6層の間に1層分類できた。色調は黄橙色（10YR7/8）を呈する。粒子は細かいが粘性はまったくなくサラサラしている。鉄分を含んだ砂層という印象を受ける。本調査区で出土する遺物は、本層を含むこの層以下にある。E-5-a-10区の遺物の多くが3~5層で出土していることを考えるとさらに古い文化層として位置づけることができよう。特にブレイドを中心とした10点のまとめりは50~60cmの狭い範囲に集中しており、ブロックの小ささも注目される。

E-5-a-10区（第15・19~27図、図版8-1・2, 11-2~14-2）

表土層下部及びローム漸移層から黒曜石が出土し始める。3~6層にかけて遺物が出土したが、



第15図 D-2-i-1・D-5-h-10・E-5-a-10区  
(1/60)



第16図 D-5-h-10区出土遺物(1) (2/3)

最も遺物の多く出土したのは5層である。総計58点の黒曜石が出土したが、ブレイドやコアの出土が多く、チップは少ない。なお、本調査区は位置的にも調査区の中央にあたり、遺物の出土も多かったことから、約2m程掘り下げを行った。層位的にも6層に分類したので、一応本遺跡の標準的な層序として以下に詳細に記述してみたい。

黒土層の下はローム漸移層ロームと続くが、ロームはさらに4層に分けることができる。以下、順を追って説明する。

1層 表土層。色調は漆黒に近い赤黒色(標準土色帳によると10R1.7/1~2.5YR1.7/1)。粒子は細かくよく縮まっているが、粘性に乏しくサラサラしている。層厚は約50cmを測る。

2層 表土層とロームの中間にあるローム漸移層。色調は暗褐色(10YR3/3)で、粒子は細かいが、粘性に乏しい。層厚は10~20cmを測る。稀に黒曜石片が出土する。

3層 ソフトローム。色調は明黄褐色(10YR6/6)。微細な白色粒子、1cm以下の青灰色の小石粒を含む。層厚は10~20cmを測る。乗鞍ロームか。

4層 色調は褐色(10YR4/6)。粒子は細かくよく縮まっており、粘性も強い。5mm~1cmの小石粒のほか、5cm前後の礫を含む。層厚は30~40cmを測る。黒曜石片が出土する。

5層 色調は褐色(10YR4/6)。粒子は細かくよく縮まっている。4層に似ているが、やや軟質。微細な白色粒子を多量に含んでいるため、やや白味を帯びているようを感じる。層厚は40~45cmで、層中央よりやや上に拳大の礫が多く見られる。50~60cmの大礫も多い。この層中全般より遺物が出土するが、この礫と同レベルでの出土が最も多く、遺物自体も大きい。

6層 色調は褐色(10YR4/6)で、4・5層に似る。白色粒子の混入が見られるが、5層に比して少なく、黄味が強い。粒子は細かく、よく縮まっている。拳大の礫のほか、40cmの大礫が混じる。現掘り下げ面も同一層で、層厚は不明。5層に近いところから黒曜石片が出土している。

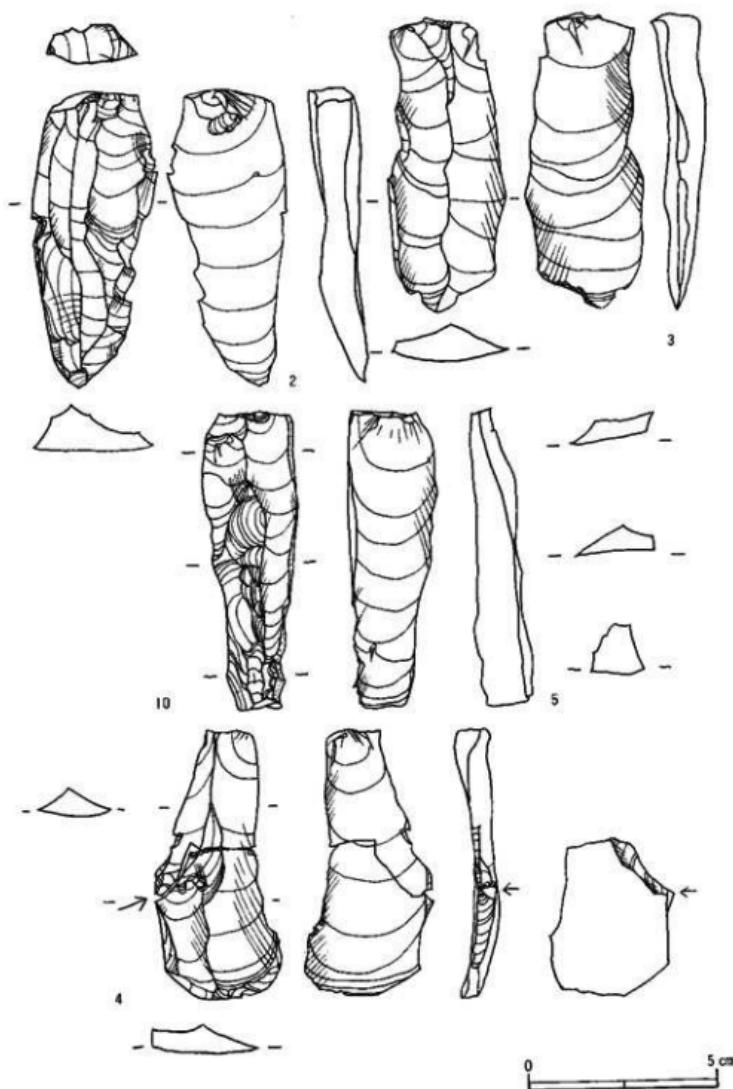
4~6層は礫の混入が多く、また、軟質で粘性も強いため、2次堆積によるものと思われる。しかし、遺物が比較的同一レベルにまとまっていることから、急激な土砂の流入によって運ばれたとは考えにくく、やはり長期にわたる自然堆積の中で、当時の生活面が確保されていたものと思われる。

E-6-a-4区(付D-6-j-3, D-6-j-4, E-6-a-3)(第29図、図版6-2)

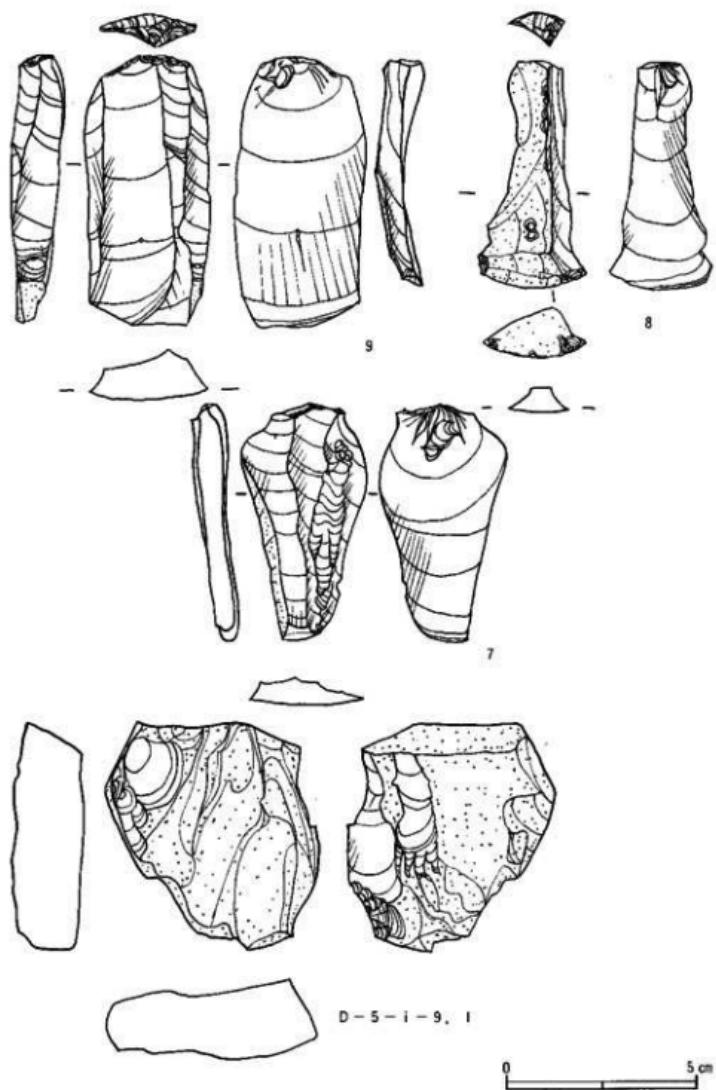
E-5-a-10区の遺物の広がりを見るために、新たに調査区を設ける。層序はE-5-a-10区と同様である。ただし、5層については調査区北東側に大礫が多く、南西に傾斜している。大礫の混入はこの5層がほとんどのようである。遺物は5層から出土している。

E-2-j-1区(付E-1-j-10)(第28・29図、図版7-2)

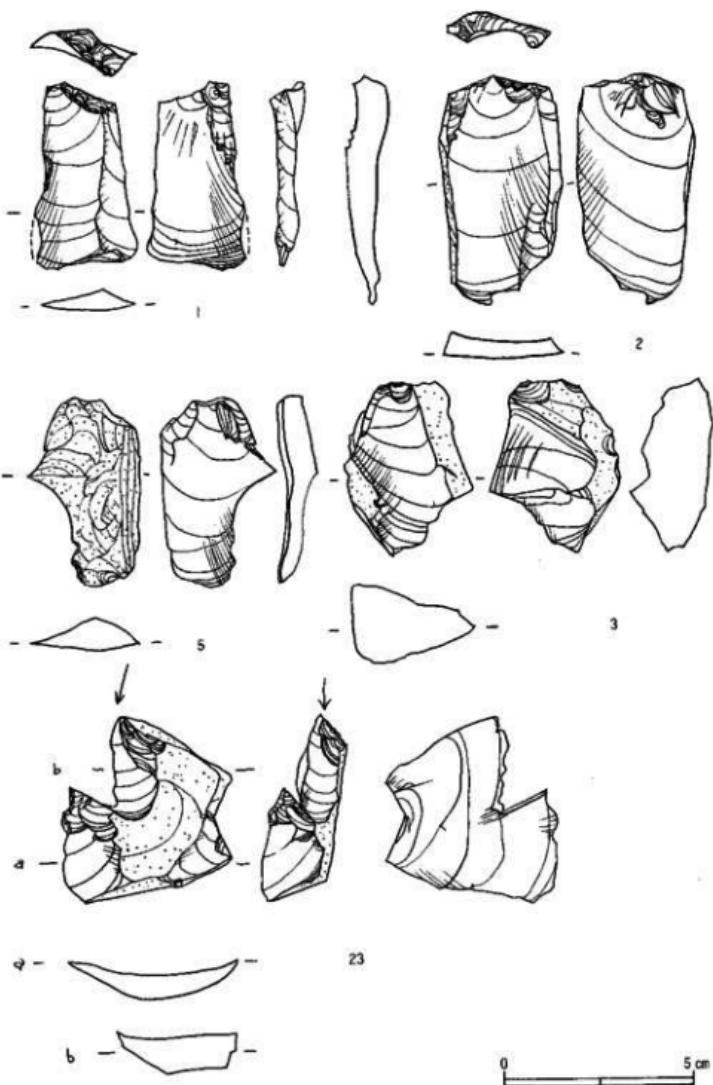
調査区の南東に位置する。30~40cmの層厚を持つ表土中より黒曜石片が採集できた。層厚50cmの漸移層、以下の灰色粒子混じりのロームとも多くの大礫を含むがこの層中から黒曜石が出土している。



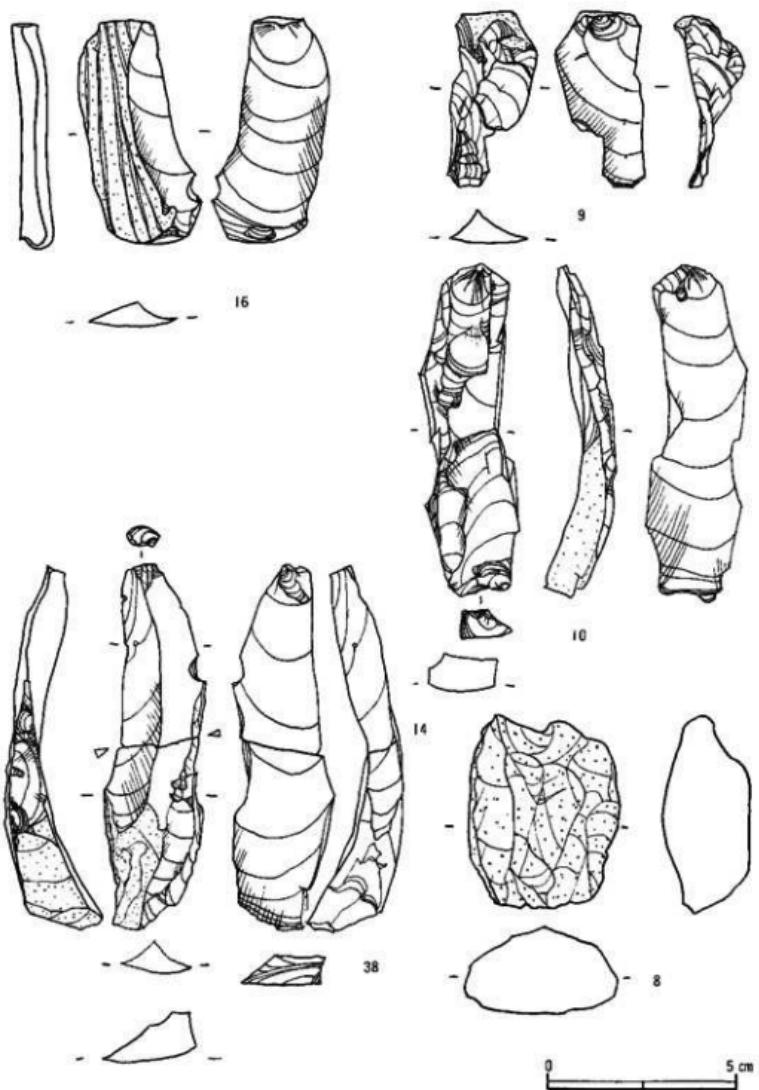
第17図 D-5-h-10区出土遺物(2) (2/3)



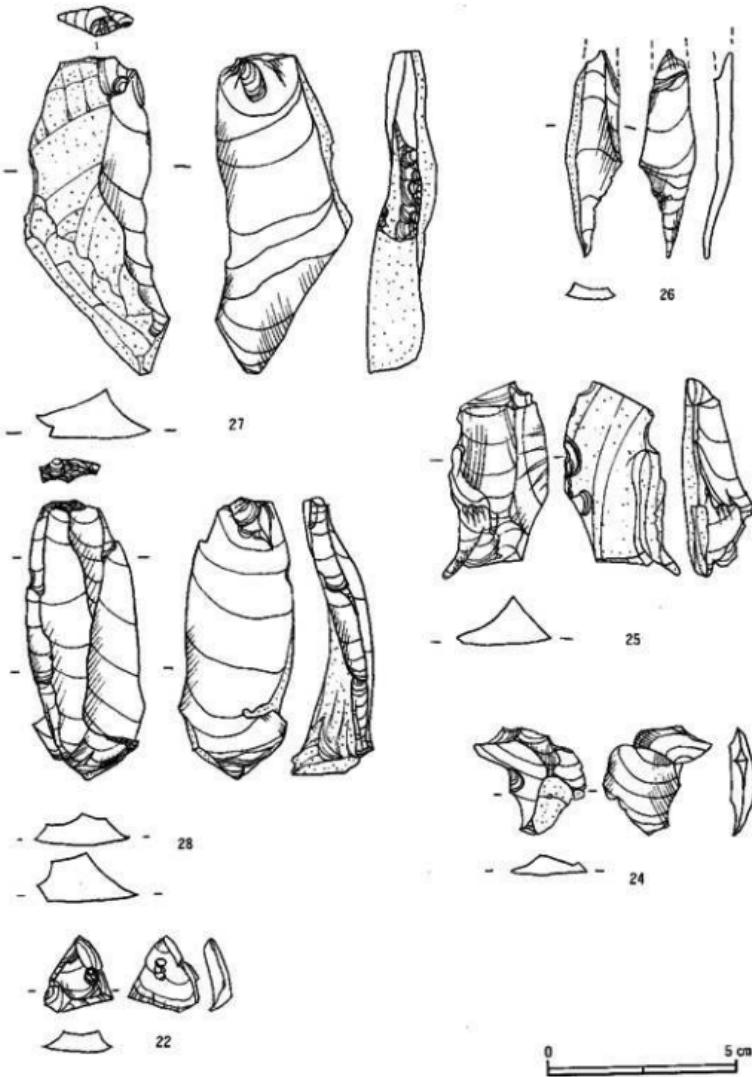
第18図 D-5-h-10 (D-5-i-9) 出土遺物(3) (2/3)



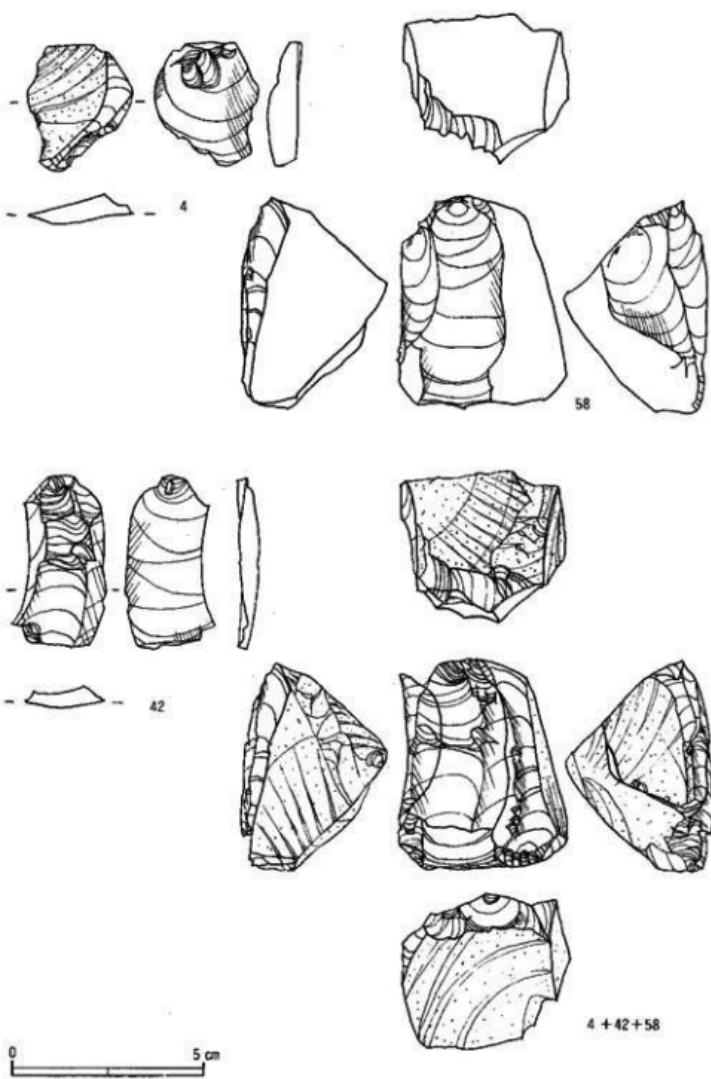
第19圖 E-5-a-10區出土遺物(1) (2/3)



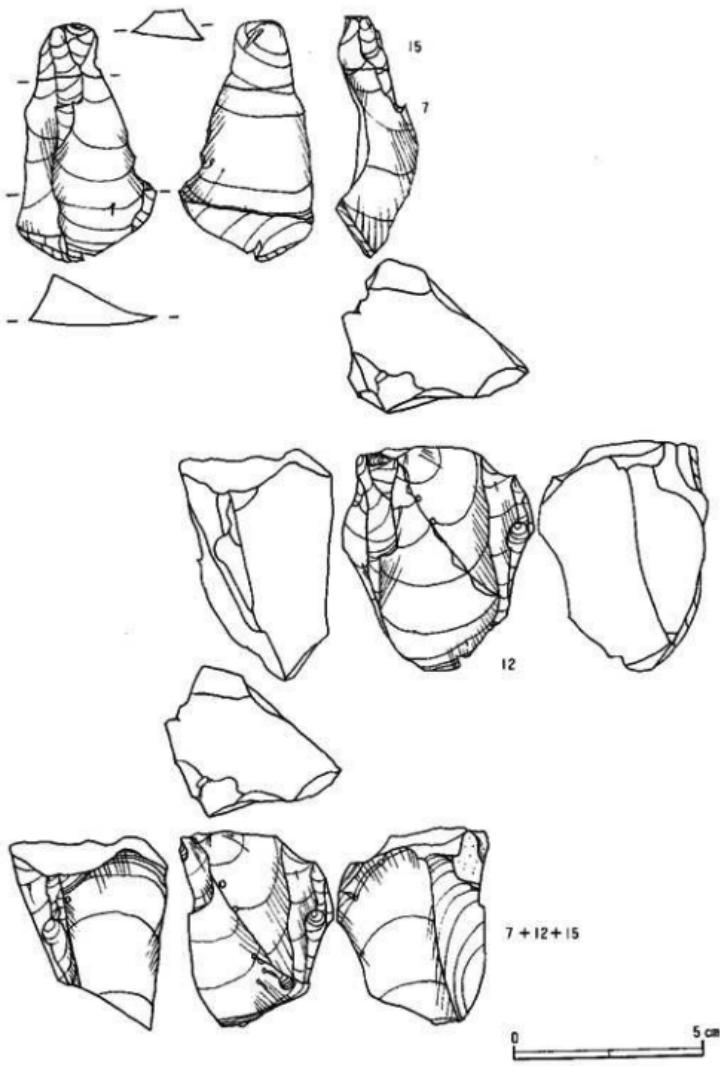
第20図 E-5-a-10区出土遺物(2) (2/3)



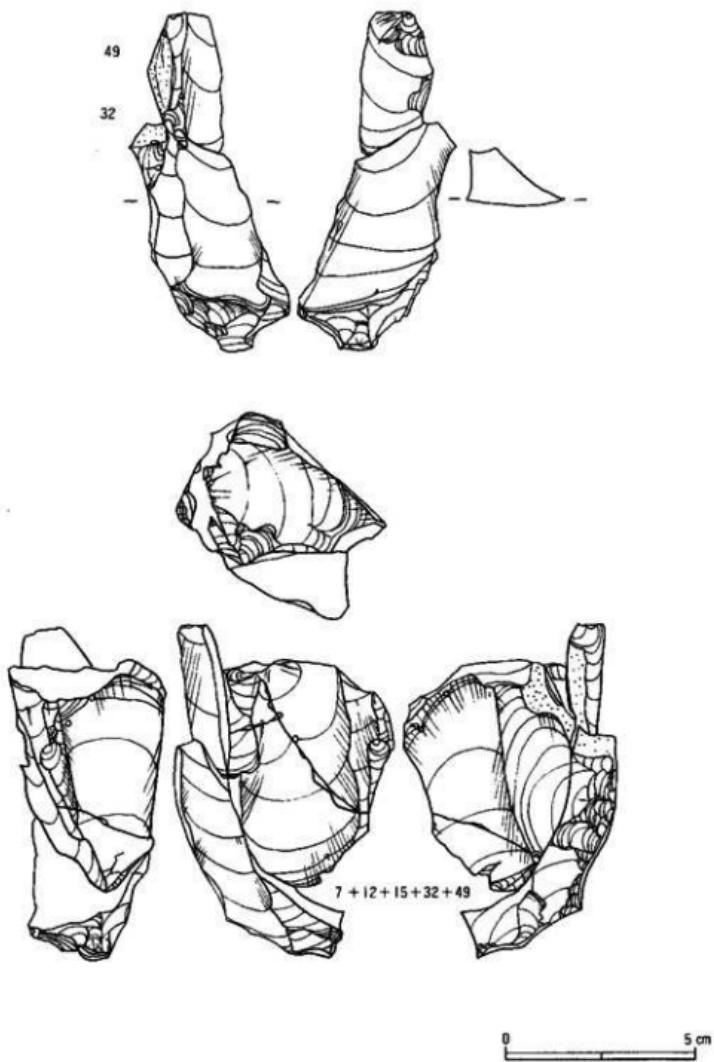
第21圖 E - 5 - a - 10區出土遺物(3) (2/3)



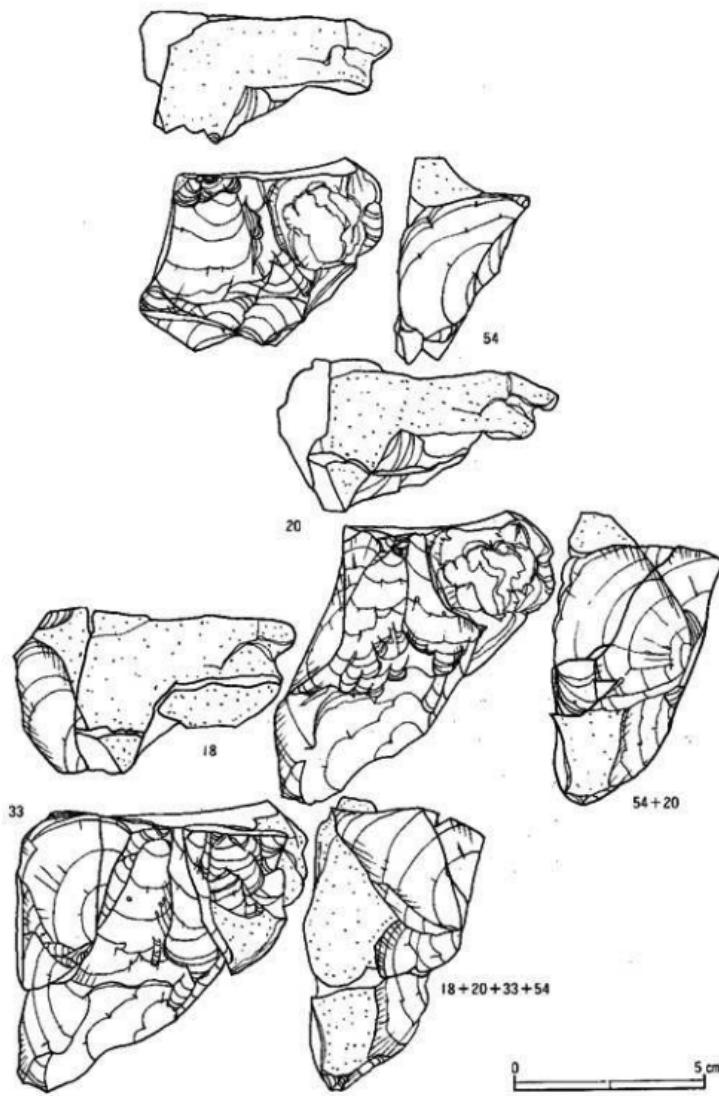
第22図 E-5-a-10区出土遺物(4) (2/3)



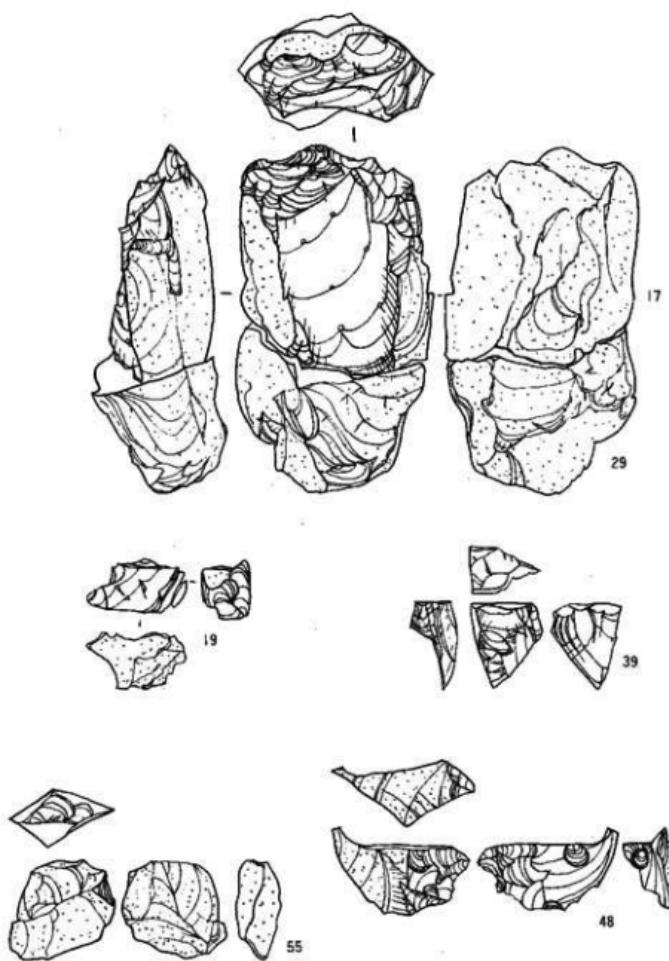
第23図 E-5-a-10区出土遺物(5) (2/3)



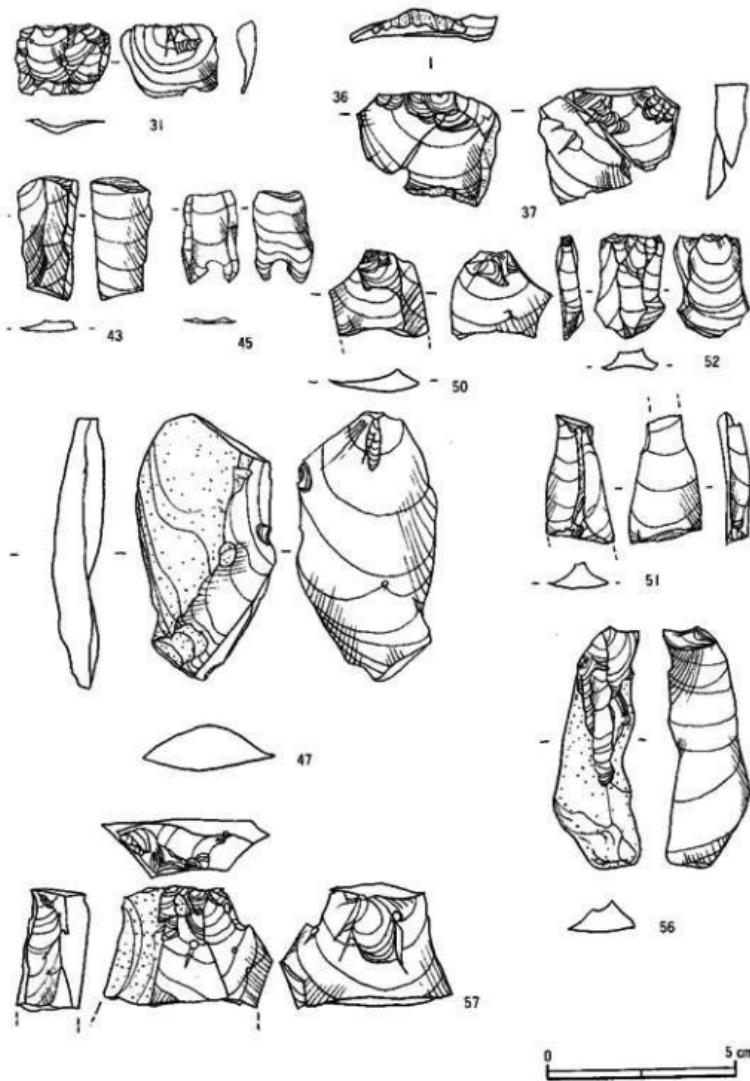
第24図 E-5-a-10区出土遺物(6) (2/3)



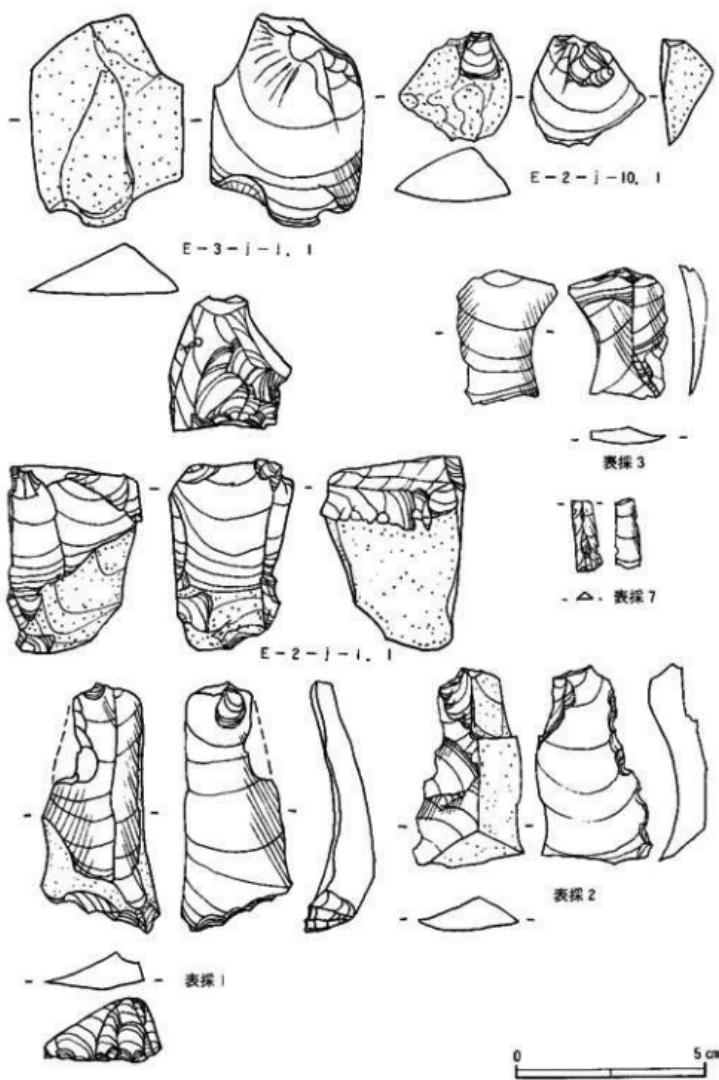
第25図 E-5-a-10区出土遺物(7) (2/3)



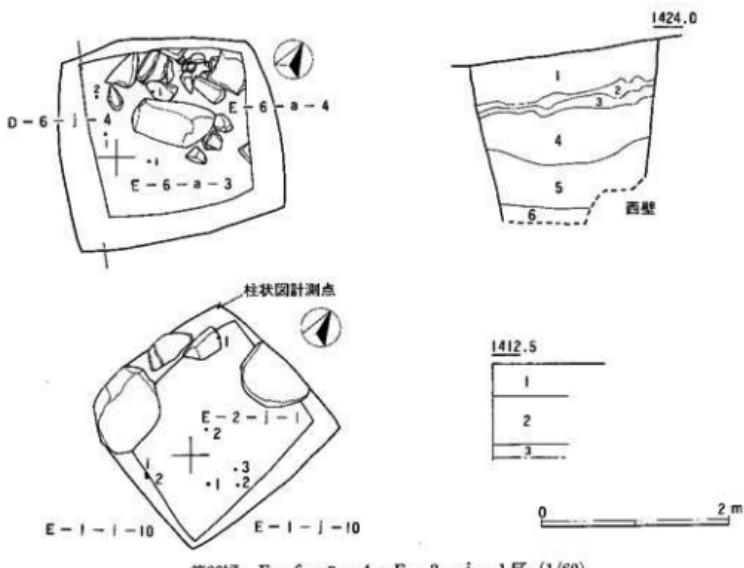
第26圖 E-5-a-10區出土遺物(8) (2/3)



第27図 E-5-a-10区出土遺物(9) (2/3)



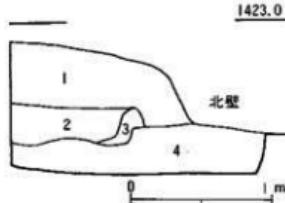
第28図 E-3-j-1・E-2-j-10・E-2-j-1区  
出土・表探遺物 (2/3)



第29図 E-6-a-4・E-2-j-1区 (1/60)

## 第2節 繩文時代以降

今回の詳細分布調査で確認された遺構は、F-6-a-10区で検出された掘り込みが唯一のものである。調査区のある場所は古い沢筋になっており、東側はローム面まで削平されていたが、土層堆積状態を見るため北壁を清掃中に検出した。遺物の出土がまったく見られないため時期等については不明であるが、黒色土層中からの掘り込みが確認されている。本遺跡からの出土遺物としては、先土器時代の遺物を除くと縄文土器片が3点出土しているにすぎず(図版15-2)、しかも本調査区の周辺での出土ではないが、一応縄文時代以降の遺物として取り扱うに止めたい。覆土は2層からなり、どちらも黒褐色土を呈している。壁際の三角堆土にはロームの混入がみられる。ローム面にまで掘り込まれており、深さは最大で30cm程である。平面的な確認を行っていないので規模がどれくらいになるかは推測できないが、同時に精査した西壁には遺構は確認されていない。



第30図 F-6-a-10区検出遺構 (1/40)

## 御小屋之久保遺跡各調査区の概要(1)

調査区名	付属面積区	開始	遺物の種類と点数	調査の概要	終了
A'-10-j-10	A'-10-j-10	06-02	表土ある黒色土を取り除くと、埴輪じりの遺物。たる・ロームなどがある。一応この層を抜くまで、掘り下げる。地表から1.3m残高取り下げるが、遺物の出土なく終了。	06-04	
A-9-j-10	A-9-j-10	06-02	黒曜石 1点 黑色土の下、ローム中から黒曜石が出土。その後、僅かな白色土の入る層を掘り抜くが、遺物の出土なく終了。	06-08	
A-10-j-10	A-10-j-10	07-15	黒色土の下、ローム断体層、にぶい暗褐色のロームと続くが、その断面層のローム内から黒曜石片が出土した。人頭大の壺の足の上、埴輪じりのロームのみかなり下まで掘り下げるが、遺物の出土なく終了。	08-08	
B-1-i-a-10		07-06	80cm程の黒色土層の下は、ローム断体層、ロームと焼くが、遺物の出土ではなく、1.2m残高まで下げるが終了となる。	07-06	
B-2-a-10		07-04	黒色土の下、ローム断体層、ロームと焼くが、かなり東に焼削しているのが確認された。ハードドローイング面からおおむね振り下げたが黒曜石がロームまで到らなかったため、遺物によつて約80~100mm振り下げる。遺物の出土なく終了。	07-06	
B-3-a-10		07-11	古窯の山からくる傾斜する面上に位置する、黒色土、ローム断体層と並いた地。ハードドームとなる。土層の地盤状態は良好であるが、遺物の出土は認められず。東側で遺物とならぶ。	07-14	
B-4-a-10	B-4-a-9	06-06	80cm程のやや黒色土の下に30cmのローム断体層、20~50cmの灰褐色層、赤褐色ローム、赤褐色ローム、黄褐色ロームと焼く。遺物が少く、土層内にごく僅かな層の入るままで見られない良好な地盤状態を示す。灰褐色～暗褐色の土層片が1点出土した。	08-10	
B-5-c-10	B-5-b-10, B-5-d-10	07-06	西窯の川の傾斜が終わり、やや平になつたところに位置する。西側にはロームが残るが、埋留はこのロームを除くように土側に焼削している。	07-06	
B-6-a-10	B-6-b-10	07-15	黒色土下、埴輪じりの暗褐色の層つたローム、壺の底から多數出土する。4HにはTlonを履くものも混じる。にぶい暗褐色のローム層から黒曜石が1点出土した。	08-02	
B-9-j-10		08-04	黒曜石 1点 表土層ある黒色土層の下部より20cm大の層が多數出土する。4HにはTlonを履くものも混じる。にぶい暗褐色のローム層から黒曜石が1点出土した。	08-08	
C-1-a-1	C-1-a-2	07-06	表土層の下は直ちに埴輪じりのロームとなる。遺物の出土なく終了。	07-06	
C-1-a-10		07-06	ローム断体層から黒曜石が1点出土した。内一点はナイフ型石器。	07-06	
C-2-a-10	C-2-b-9, C-2-b-10	07-04	ローム断体層を見て、さらにロームを30cm振り下げた結果同じロームから黒曜石が出土し始めた。当社窯場じりのローム上面が洗浄されたが、他の窯を区別するため、窯場の窯を区別するための層からさらに下に、文化層が存在することが確認され、後日再調査したところ、さきに50cm以上積み重ねる黒曜石が出土した。	08-12	
C-3-a-10	C-3-a-9	07-04	1.5m層の黒色の炭化層の下に、さらに10cm程剥離した黒色土が堆積する。西に傾斜しており、かつてはこれまであったことが確認される。この砂利混じりの黒色土から土器片が1点出土した。	07-05	

## 御小屋之久保遺跡各調査区の概要(2)

調査区名	付属調査区	開始	遺物の種類と点数	作業班	酒、土の瓶、甕
C-3-j-9	C-3-j-10	07-04	Sakai班の出土層の下、ローム層と層く。出来るだけ入りに調査するが、遺物はなかなかつまらない。	08-11	
C-4-a-10		07-05	黒曜石 2 点		
C-4-a-10		07-06	黒曜石 10点		
C-4-e-4	C-4-e-5, C-4-h-4, C-4-h-5	07-06	開発するC-4-e-10で動物が出土しているため、タブを見るために新たに西条区を設ける。ローム中より黒曜石が1点出土した。確認して確認しのロームとならない。時代を終了したが、作業終了直前の再調査で確認して確認しのロームより新たに9点の黒曜石が出土した。	08-12	
C-4-i-10	C-4-j-9	07-06	30点以上の黒曜石を下げる。確認して確認しのロームとならず、その他の黒曜石が出土した。その他の黒曜石を下げる。確認して確認しのロームを振り抜くが、新しい遺物の自然のものとなる。	08-32	
C-5-a-10		08-09	黒曜石 1 点		
C-5-a-10		08-10	黒曜石 1 点		
C-5-a-10		08-10	黒曜石 1 点		
C-6-a-10		08-05	黒曜石 8 点		
C-6-j-10	C-6-j-9	08-04	黒曜石 8 点		
C-7-b-10	C-7-c-10, C-8-b-1	07-07	黒曜石の下では複数のロームとなる。確認して確認しのロームの下、複数の白色粒子の混じる層にまで達した。遺物の出土は無く、終了。	08-15	
C-8-a-10		08-07	黒曜石 1 点		
C-8-j-1	C-8-i-1	07-07	黒曜石 1 点		
C-8-j-10		07-15	黒曜石 1 点		
D-2-a-10		07-04	ローム層に露出するが、人骨が露出するが、黒色土層中より大磯が出土しており、人骨では取り下げる可能性があり、搬移層で中断する。	07-34	
D-2-i-1	D-1-i-10, D-1-j-10, D-2-j-1	08-05	ローム層に位置するが、人骨が露出するが、平になされたところに調査があるた	08-06	
D-4-j-3		08-12	黒曜石 2 点		
			以前の調査区(指定期間内)のトレンチを、遺物の出土層位の確認のため振り下げる。やはり今回も調査で確認されたローム層と層下の確認して確認しのロームが遺物の出土層位であり今回E-5-a-10で出土した遺物が、更に古い文化層の物であることを確認。	08-12	

## 御小屋之久保遺跡各調査区の概要(3)

調査区名	付属調査区	開始	終了	調査の種類と点数	調査の概要
D-5-i-10	D-6-f-1	08-02		遺物の広がりを見たために、新たに調査区を設けたが、黒色土の下は地中に埋没じりのロームとなる。E-5-a-10下部の土層は少ししたが、黒色土と呼ぶ字がふさわしくない。地表から2mまで掘り下げるが、遺物を探して調査を断念する。	終了 08-03
D-5-h-10	D-5-h-9, D-5-i-9, D-5-i-10	07-14	黒曜石12点	遺物の広がりを見たために、新たに調査区を設ける。E-5-a-10区よりも、下の層から黒曜石片が出た。更に小文化層として確認できる。	08-02
D-6-j-10	D-9-i-1	07-07	黒曜石16点	黒色土の下のローム層移層、ロームと良好な堆積状態を示したが、遺物の出土は無かった。	08-07
D-8-j-10	D-9-i-1	07-15		ロームを0.5mm層隔り下げるが、遺物の出土は無く、終了。	07-15
D-9-j-10	E-9-i-10	08-07		良好な土塊堆積状態を示したが、遺物の出土は無く、終了。	08-07
E-2-j-1	E-1-i-10	08-03	黒曜石16点	表土層よりチップが拾える。釋出じりのローム層から黒曜石片が出土する。	08-03
E-3-j-1	E-2-i-10	07-31	黒曜石2点	地表より1.2m、ローム層移層上面から0.8m掘り下げるが、遺物の出土は無く、終了。	08-03
E-5-a-10		07-06	黒曜石58点	表土層下部及び0.5mの土層から3番目から5番目まである。表土層からは5番目に当たる。黒曜石のブレードやコア片は見られないが、チップは少なくない。	07-15
E-5-a-4	D-6-i-3, D-6-j-4, E-6-a-3	07-06	黒曜石4点	E-5-a-10の遺物の広がりを見るために、新たに調査区を設ける。E-5-a-10と同じ箇所から黒曜石片の山が見られ、底が川を確認できる。	07-14
F-4-a-1	E-4-i-1	08-02		地表から1.2m層隔り下げる。台地中央部と異なり、他の辺の堆積の無いロームが堆積するが、遺物の出土は無く、終了。	08-02
F-4-a-10	E-4-i-10	07-14		地表から1.2m層隔り下げる。遺物の出土は無く、終了。	07-15
F-5-a-10	F-6-a-1	07-06		黒色土のローム層移層、ローム層と表土。0.9m層隔り下げるが、遺物の出土は無く、終了。	08-10
F-5-i-10	F-6-i-1	07-06		現在沢となっているところ。普段は水が流れていないので、掘り始めると、ローム層に到達する前に水が噴出する。堆積してある時に剥離振り下げるが、0.7m層で繩が多くなり調査を断念する。遺物の出土は無かった。	07-06
F-6-a-10		07-06		古い樹根となり、裏側はローム層と判別されている。北壁で黒色土層から剥離込まれる繩様が確認される。遺物の出土が無いため、站牌等について下記。	07-07
F-7-a-10		08-06		地表から1.1m層隔り下げるが、遺物の出土無く、終了。	08-09
G-4-a-10	G-4-b-10	08-03		表土層下ローム層移層、灰褐色のローム、繩遺じりのロームと繩の混じりの層と表土。地表から1.5m層隔り下げるが、遺物の出土無く、終了。	08-03
G-10-a-10		07-07		表土から人骨が出土し、人骨との関係が困難たりか、やむなく終了する。	07-07
表床		07-04	黒曜石18点、1.5kg 2点		08-12

## 御小屋之久保邊鉄石器一覽表(1)

調査区名	遺物番号	绝对高さ	出土位置	種類	幅(cm)	厚さ(cm)	標高(m)	排水番号	備考
A-9-j-10	1	1433.93	にぶい暗褐色のローム	スクレイバー	3.3	4.2	1.1	12.3	7
A-10-j-10	1	1437.155	にぶい暗褐色のローム	フレイク	4	2.5	0.8	8.6	7
A-10-j-10	2	1437.21	にぶい暗褐色のローム	フレイク	6.2	3.1	1.9	5.7	7
A-10-j-10	3	1437.26	にぶい暗褐色のローム	フレイク	3.6	1.9	0.9	5.1	7
A-10-j-10	4	1437.125	にぶい暗褐色のローム	フレイク	4	2.7	0.6	7.7	7
A-10-j-10	5	1436.92	にぶい暗褐色のローム	フア	5.3	4	1.5	3.8	7
B-4-a-10	1	1423.995	灰褐色~暗褐色のローム	フレイク	3.6	3.1	0.9	8.6	9
B-9-j-10	1	1433.224	にぶい暗褐色のローム	フレイク	3.7	4.7	1.5	19.9	9
C-1-a-10	1	1412.865	ローム無機層	チップ	1.3	1.9	0.6	1	
C-1-a-10	2	1412.78	ローム無機層	チップ	1.5	1.3	0.5	0.8	
C-1-a-10	3	1412.64	雑混じりローム	フレイク	5	2.7	0.6	5	9
C-1-a-10	4	1412.695	雑混じりローム	チップ	4	2.2	0.6	4	9
C-1-a-10	5	1412.695	雑混じりローム	チップ	1.8	1.7	0.6	1.4	
C-1-a-10	6	1412.375	雑混じりローム	フレイク	3.5	2.4	0.6	1.9	9
C-1-a-10	7	1412.625	雑混じりローム	フレイク	4.3	4.1	1.6	1.92	9
C-2-a-10	1	1414.967	雑混じりローム	チップ	0.8	0.7	0.2	0.3	
C-2-a-10	2	1414.961	雑混じりローム	フレイク	3.3	1.5	0.8	2.3	
C-2-a-10	3	1414.947	雑混じりローム	フレイク	3.2	1.3	0.5	2	10
C-2-a-10	4	1414.961	雑混じりローム	フレイク	4.3	2.4	1.3	12	10
C-2-a-10	5	1414.982	雑混じりローム	フレイク	5.8	1.6	1	8.7	10
C-2-a-10	6	1414.963	雑混じりローム	フレイク	2.6	1.8	0.4	1.4	10
C-2-a-10	7	1414.919	雑混じりローム	チップ	1	0.8	0.2	0.3	
C-2-a-10	8	1414.925	雑混じりローム	石刃	2	1.8	0.3	1.5	10
C-2-a-10	9	1414.875	雑混じりローム	チップ	1	0.8	0.2	0.2	

御小屋之久保遺跡石器 観察表(2)

調査区分名	遺物番号	絶対高さ	出土層位	種 別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	種別番号	周囲番号	備考
C-2-a-10	10	1414.815	縫混じりローム	チップ	—	1.6	1.3	0.3	0.4	
C-2-a-10	11	1414.82	縫混じりローム	フレイク	2.7	2	0.6	4.2	10	下部を欠損
C-2-a-10	12	1414.795	縫混じりローム	9片	2.9	2.1	1	4.5		
C-2-a-10	13	1414.78	縫混じりローム	チップ	1.8	1	0.3	0.6		下部を欠損
C-2-a-10	14	1414.785	縫混じりローム	フレイク	2.7	2.7	2.1	1.7	10	23と連合
C-2-a-10	15	1414.775	縫混じりローム	チップ	1.7	1	0.3	0.5		
C-2-a-10	16	1414.79	縫混じりローム	チップ	0.7	0.5	0.1	6.1		
C-2-a-10	17	1414.81	縫混じりローム	フレイク	2.3	1.2	0.3	1	10	10-1
C-2-a-10	18	1414.815	縫混じりローム	チップ	1.3	0.5	0.3	0.2		
C-2-a-10	19	1414.77	縫混じりローム	チップ	1.1	0.6	0.1	0.1		
C-2-a-10	20	1414.765	縫混じりローム	フレイク	2.8	2.3	0.2	1		
C-2-a-10	21	1414.745	縫混じりローム	フレイク	2.6	1.4	0.6	1.8		
C-2-a-10	22	1414.85	縫混じりローム	チップ	1.5	1.3	0.4	0.6		
C-2-a-10	23	1414.86	縫混じりローム	フレイク	2.8	2.3	0.9	5.1	10	14と連合
C-2-a-10	24	1414.865	縫混じりローム	フレイク	2.4	1.4	0.5	0.9		
C-2-a-10	25	1414.795	縫混じりローム	チップ	0.6	0.7	0.2	0.1		
C-2-a-10	26	1414.845	縫混じりローム	フレイク	3.8	1.1	0.4	1.5	10	10-1
C-2-a-10	27	1414.855	縫混じりローム	チップ	1.1	1.1	0.3	0.3		
C-2-a-10	28	1414.77	縫混じりローム	チップ	1.5	0.8	0.3	0.3		
C-2-a-10	29	1414.81	縫混じりローム	フレイク	3.4	1.8	0.3	1.6	10	10-1
C-2-a-10	30	1414.77	縫混じりローム	フレイク	1.8	1.3	0.6	1.4		
C-2-a-10	31	1414.855	縫混じりローム	フレイク	1.8	1.9	0.6	1.3		
C-2-a-10	32	1414.86	縫混じりローム	フレイク	3.8	1.5	0.8	5.4	10	10-1
C-2-a-10	33	1414.855	縫混じりローム	チップ	1.1	0.7	0.2	0.2		

## 銅小屋之久保造鉱石器一覽表(3)

調査区名	遺物番号	絶対高さ	出土位置	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	持因番号	図版番号	備考
C-2-a-10	34	1414.79	礫混じりローム	フレイク	3.3	1.6	0.4	2.3	10	10-1
C-2-a-10	35	1414.83	礫混じりローム	チップ	1.4	1.4	0.2	0.5		
C-2-a-10	36	1414.865	礫混じりローム	チップ	0.7	0.4	0.1	0.1		
C-2-a-10	37	1414.815	礫混じりローム	フレイク	3.3	1.1	0.3	1	10	10-1
C-2-a-10	38	1414.805	礫混じりローム	フレイク	2.5	1.5	0.3	0.7		
C-2-a-10	39	1414.8	礫混じりローム	フレイク	3.7	1	0.6	1.8	10	10-1
C-2-a-10	40	1414.8	礫混じりローム	チップ	1.1	0.9	0.1	0.2		
C-2-a-10	41	1414.81	礫混じりローム	チップ	0.7	0.5	0.1	0.1		
C-2-a-10	42	1414.84	礫混じりローム	フレイク	3.3	2.6	0.7	5	11	
C-2-a-10	43	1414.845	礫混じりローム	フレイク	2.1	1.5	0.6	1.7		
C-2-a-10	44	1414.84	礫混じりローム	チップ	1.1	0.6	0.2	0.1		
C-2-a-10	45	1414.82	礫混じりローム	チップ	1.8	0.9	0.2	0.4		
C-2-a-10	46	1414.85	礫混じりローム	チップ	0.8	0.7	0.1	0.1		
C-2-a-10	47	1414.85	礫混じりローム	チップ	1.8	1.2	0.3	0.6		
C-2-a-10	48	1414.865	礫混じりローム	石刃	6	1.7	1.1	8.1	11	10-1
C-2-a-10	49	1414.855	礫混じりローム	チップ	1.7	0.9	0.2	0.4		
C-2-a-10	50	1414.905	礫混じりローム	フレイク	2.9	1.9	0.7	2.7	11	
C-2-a-10	51	1414.86	礫混じりローム	フレイク	1.7	1.4	0.7	1.2		
C-2-a-10	52	1414.9	礫混じりローム	チップ	0.7	1	0.1	0.1		
C-2-a-10	53	1414.925	礫混じりローム	チップ	1.2	1	0.1	0.1		
C-2-a-10	54	1414.89	礫混じりローム	フレイク	2.4	1.8	0.3	1.7	11	
C-2-a-10	55	1414.905	礫混じりローム	砂片	3.2	3.2	1.5	11.9	11	
C-2-a-10	56	1414.835	礫混じりローム	チップ	1	0.7	0.3	0.3		
C-2-a-10	57	1414.88	礫混じりローム	チップ	1.5	1.2	0.2	0.5		

細小屋之久保遺跡石器一覧(表4)

調査区名	遺物番号	absolute height	出土層位	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	種類番号	図版番号	備考
C-2-a-10	58	1414.84	縫隙じりローラ	チップ	1	0.6	0.2	0.2		
C-2-a-10	59	1414.785	縫隙じりローラ	チップ	1.1	1.1	0.4	0.5		
C-2-a-10	60	1414.775	縫隙じりローラ	チップ	1.8	1.5	0.3	0.7		
C-2-a-10	61	1414.8	縫隙じりローラ	チップ	1.2	0.7	0.2	0.2		
C-2-a-10	62	1414.825	縫隙じりローラ	チップ	2.3	1.7	0.5	1.9		
C-2-a-10	63	1414.81	縫隙じりローラ	チップ	2.4	1.2	0.3	1		
C-2-a-10	64	1414.775	縫隙じりローラ	チップ	1.2	0.9	0.4	0.5		
C-2-a-10	65	1414.775	縫隙じりローラ	チップ	1.3	0.8	0.2	0.3		
C-2-a-10	66	1414.77	縫隙じりローラ	チップ	3.4	1.6	0.4	1.9	11	10.1
C-2-a-10	67	0	ローム層特異	チップ	3.5	1.5	1.1	4.7	11	地点不明
C-2-b-9	1	1416.09	ローム層特異	コア?アースチップ	3.8	3.5	2	15.4	11	
C-2-b-10	1	1416.988	縫隙じりローラ	石片	2.7	2.9	0.8	6	11	
C-2-b-10	2	1414.962	縫隙じりローラ	チップ	2.8	1.5	0.5	1.5		
C-2-b-10	3	1414.785	縫隙じりローラ	チップ	2.3	2.3	0.5	2.4		
C-2-b-10	4	1414.785	縫隙じりローラ	チップ	3.4	2	0.7	2.7	11	
C-2-b-10	5	1414.825	縫隙じりローラ	チップ	4.8	2.2	1.3	9	11	10.1
C-2-b-10	6	1414.83	縫隙じりローラ	チップ	1	1.2	0.3	0.3		
C-2-b-10	7	1414.855	縫隙じりローラ	チップ	1.7	1.5	0.2	1		
C-2-b-10	8	1414.865	縫隙じりローラ	チップ	1.1	0.7	0.3	0.2		
C-4-a-10	1	0	黑色上層2	チップ	3.2	2.3	0.8	4.6	13	10.2
C-4-a-10	2	0	黑色土層2	チップ	3.2	2.3	0.9	7.4	13	10.2
C-4-g-4	1	1418.626	ローム層特異	チップ	4.9	1.7	0.6	3.5	13	10.2
C-4-g-4	2	1418.29	縫隙じりローラ	チップ	3.6	1.8	0.9	4.9	13	10.2
C-4-g-4	3	1418.37	縫隙じりローラ	チップ	2.4	1.4	0.4	1.5		

## 解小原之久保遺跡石器一覽表(5)

測量区名	遺物番号	絶対高さ[m]	出土層位	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	採取番号	図版番号	備考
C-4-g-4	4	1418.36	礫混じりローラム	チップ	1.1	1.8	0.2	0.4			
C-4-g-4	5	1418.295	礫混じりローラム	チップ	3.7	1.9	0.5	0.5	13	10-2	
C-4-g-4	6	1418.345	礫混じりローラム	チップ	3.1	2.3	0.7	3.2	13	10-2	
C-4-g-4	7	1418.335	礫混じりローラム	チップ	2.7	1	0.35	0.7			
C-4-g-4	8	1418.34	礫混じりローラム	チップ	2.4	1.6	0.8	2.5	13	10-2	
C-4-g-5	1	1418.33	礫混じりローラム	チップ	1.5	0.9	0.15	0.3			
C-4-h-4	1	1418.285	礫混じりローラム	チップ	4.7	2.3	1.2	8.7	13	10-2	
C-4-j-9	1	1419.94	礫混じりローラム	チップ	3.3	4.2	0.8	7.1			
C-5-j-10	1	1422.654	下陶	チップ	4.1	3.3	1.3	13.1	13		
C-6-j-9	1	1425.333	無修層	チップ	2.6	1.3	0.3	1.1			
C-6-j-9	2	1425.427	礫混じりローラム	チップ	3.1	1.9	0.6	3.1	12		
C-6-j-9	3	1425.289	礫混じりローラム	コア	4.6	3.9	2.2	43.7	12		
C-6-j-10	1	1425.229	礫混じりローラム	碎片	4	2.9	1.4	15.2			
C-6-j-10	2	1425.567	無修層	チップ	2	1.8	0.6	1.9			
C-6-j-10	3	1425.547	無修層	チップ	1.3	0.7	0.3	0.2			
C-6-j-10	4	1425.434	礫混じりローラム	チップ	1.2	1.8	0.3	0.4			
C-6-j-10	5	1425.634	無修層	チップ	3.1	2.1	0.7	3.9	12		
C-6-j-10	6	0	表層	チップ	5	3.1	0.8	9.2	12		
C-8-i-1	1	1427.683	ローラム	碎片	4.3	5.5	2.3	38.7			
C-8-j-10	1		表層	チップ	4.5	3.8	1.7	23			
D-2-i-1	1	1412.34	ローラム修層	チップ	3.5	2.2	0.5	3.8	7		
D-4-j-3	1		黒色土	チップ	1.9	1.2	0.5	0.7			
D-4-j-3	2		黒色土	チップ	1.1	0.95	0.2	0.2			
D-5-h-9	1	1421.595	ローラム	單石	6.8	5	1.7	67.6	18		

御小屋之久保遺跡石器一覽表(6)

測量区名	遺物番号	绝对年期	出土位置	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	種名(6)	標本番号	備考
D-5-h-9	2	1421.79	新井層②	7レイク	2.8	1.4	0.4	1.6		
D-5-h-10	1	1421.16	口-△-4⑤	7レイク	8.5	3.2	1.8	4.6	16	11-1 6と複合
D-5-h-10	2	1421.22	口-△-3⑤	7レイク	7.8	3.2	1.2	2.6	17	11-1
D-5-h-10	3	1421.115	口-△-4⑥	7レイク	7.7	3.2	1.4	2.0	17	11-1
D-5-h-10	4	1421.08	口-△-4⑥	7レイク	4.4	3.3	0.7	9.8	17	11-1 10と複合
D-5-h-10	5	1421.165	口-△-4⑤	7レイク	7	6.3	1	21.3	17	11-1
D-5-h-10	6	1421.16	口-△-4⑤	7レイク	8.5	3.6	1.6	3.4	16	11-1 1と複合
D-5-h-10	7	1421.17	口-△-4⑥	7レイク	6.2	3.4	0.7	15.3	18	11-1
D-5-h-10	8	1421.17	口-△-4⑥	エンド・スクレイプ	6.1	2.8	0.9	9.5	18	11-1
D-5-h-10	9	1421.07	口-△-4⑤	7レイク	7	3.3	1.4	3.2	18	11-1
D-5-h-10	10	1421.09	口-△-4⑤	7レイク	4.9	2.4	0.7	5.3	17	11-1 4と複合
D-6-i-4	1	1422.③		7レイク	2.4	1.4	0.5	1.7		
D-6-i-4	2	1422.04	③	7レイク	2.3	1.6	0.3	1.1		
E-1-i-10	1	1411.566	口-△-ム斎藤層	チップ	0.7	1	0.2	0.2		
E-1-i-10	2	1411.441	口-△-ム斎藤層	コラ	4.2	4.2	2.8	44	12	
E-1-i-10	1	1411.581	口-△-ム斎藤層	7レイク	5.2	4.9	1.3	17.6	12	
E-1-i-10	2	1411.541	口-△-ム斎藤層	チップ	1.4	1.2	0.2	0.4		
E-1-i-10	3	1411.436	口-△-ム斎藤層	碎片	3	2.7	1.3	15.9		
E-2-j-1	1	1411.616	口-△-ム斎藤層	コラ	5	3.7	3	37.1	28	
E-2-j-1	2	1411.571	口-△-ム斎藤層	7レイク	2	0.4	1.3			
E-2-j-1	3		表层	7レイク	1.8	2.7	0.5	1.2		
E-2-j-1	4		表层	チップ	1	1.15	0.1	0.4		
E-2-j-1	5		表层	チップ	0.8	1.5	0.1	0.1		
E-2-j-1	6		表层	チップ	1	1	0.2	0.2		

## 御小屋之久保遺跡石器一覽表(7)

測量区名	遺物番号	绝对高程	出土層位	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(kg)	測量番号	備考
E-2-j-1	7	表層	チップ		1.2	0.8	0.2	0.1		
E-2-j-1	8	表層	チップ		0.9	0.6	0.1	0.09		
E-2-j-1	9	表層	チップ		0.5	1	0.3	0.1		
E-2-j-1	10	表層	チップ		0.4	1.1	0.2	0.12		
E-2-j-1	11	表層	チップ		1	0.7	0.1	0.12		
E-2-j-10	1	0 黒色土層	フレイク		2.8	3	1.4	7.6	28	
E-3-j-1	1	0 黒色土層	フレイク		5.4	4	1.5	27.7	28	
E-5-a-10	1	1421.44 □-△-5	フレイク		4.9	2.7	0.4	7.2	19	11-2
E-5-a-10	2	1421.188 □-△-5	フレイク		5.6	4.6	0.7	15.6	19	11-2
E-5-a-10	3	1421.697 ローム断続層	石核片		4.5	3.6	2.1	22.6	19	
E-5-a-10	4	1421.165 □-△-5	フレイク		3.4	2.7	0.5	5.3	22	12-1・2 42, 58と複合
E-5-a-10	5	1421.203 □-△-5	フレイク		5	3	0.7	8.4	19	11-2 55と複合
E-5-a-10	6	1421.32 □-△-4	フレイク		2.4	1.3	0.5	1.2		
E-5-a-10	7	1421.065 □-△-5	フレイク		4.9	3.7	1	21.7	23・24	13-1・2 12, 15, 34と複合
E-5-a-10	8	1421.308 □-△-4	磨石		4.4	5.3	2.2	50.7	20	
E-5-a-10	9	1421.266 □-△-5	コア調製剝片		4.4	3.4	1.4	10.8	20	
E-5-a-10	10	1421.193 □-△-5	フレイク		8.8	3	1.1	26.8	20	11-2
E-5-a-10	11	1421.217 □-△-5	チップ		0.8	2	0.2	0.3		
E-5-a-10	12	1421.18 □-△-5	コア		6	5	2.6	66.5	23・24	13-1・2 7, 15, 34と複合
E-5-a-10	13	1421.19 □-△-5	フレイク		1.8	1.6	0.2	0.6		
E-5-a-10	14	1421.222 □-△-5	フレイク		4.9	2.5	0.8	8.9	20	11-2 38と複合
E-5-a-10	15	1421.253 □-△-5	フレイク		1.8	2.2	0.8	2.5	23・24	13-1・2 7, 12と複合
E-5-a-10	16	1421.257 □-△-5	フレイク		5.9	2.9	0.8	11.8	20	11-2
E-5-a-10	17	1421.245 □-△-5	コア		6.7	5.8	2.3	84.2	26	19, 29と複合, 39と同一個体

## 御小屋之久保遺跡石器一覽表(6)

測量区名	遺物番号	絶対高さ	出土層位	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	標因番号	標因番号	備考
E-5-a-10	18	1421.244	□-△-5	△?	4.3	2.9	1.4	18	25	14-1・2 20, 54と組合, 33と同一個体
E-5-a-10	19	1421.24	□-△-5	△?	2.7	1.6	1.1	4.8	26	17, 29と組合
E-5-a-10	20	1421.283	□-△-5	△?	5.2	8	3.5	96	25	14-1・2 18, 54と組合, 33と同一個体
E-5-a-10	21	1421.678	□-△-5 新修繕	△?	2.1	1.3	0.15	0.5		
E-5-a-10	22	1421.81	□-△-5 新修繕	△?	1.9	1.8	0.3	1.4	21	
E-5-a-10	23	1421.066	□-△-5	新修繕	4.6	5	0.7	17.1	19	
E-5-a-10	24	1421.286	□-△-5	△?	3	2.2	0.4	2.6	21	
E-5-a-10	25	1421.19	□-△-5	鉢片	5	3.4	1.6	17.3	21	
E-5-a-10	26	1421.04	□-△-5	△?	5.5	1.6	0.3	2.7	21	
E-5-a-10	27	1421.108	□-△-5	△?	8.5	4	1.2	36.3	21	11-2
E-5-a-10	28	1421.118	□-△-5	△?	7.3	3.1	1.7	32.4	21	11-2
E-5-a-10	29	1421.255	□-△-5	△?	4	4.8	2.5	39.6	26	17, 19, 39と組合
E-5-a-10	30	1421.389	□-△-5	△?	2.3	2.8	0.7	1.6		
E-5-a-10	31	1421.03	□-△-5	△?	1.9	2.6	0.4	1.5	27	
E-5-a-10	32	1421.075	□-△-5	△?	6.9	3	1.8	34.1	24	13-1・2 7, 12, 49と組合
E-5-a-10	33	1421.132	□-△-5	△?	1.8	5.6	1.8	34.1	25	14-1・2 20, 54と組合, 18と同一個体
E-5-a-10	34	1421.052	□-△-5	△?	2.6	1.3	0.2	0.7		
E-5-a-10	35	1421.167	□-△-5	△?	1.3	2	0.3	0.9		
E-5-a-10	36	1421.152	□-△-5	△?	2.9	2.7	0.4	2.5	27	37と組合
E-5-a-10	37	1421.387	□-△-4	△?	2.4	3.2	0.3	3.9	27	36と組合
E-5-a-10	38	1421.142	□-△-5	△?	5.3	2.7	1.6	23.9	26	11-2 14と組合
E-5-a-10	39	1421.252	□-△-5	コアの碎片	1.8	2.3	1.2	3.6	26	17, 19, 29と組合
E-5-a-10	40	1421.268	□-△-5	チップ	1.9	1	0.3	0.3		
E-5-a-10	41	1421.248	□-△-5	チップ	1.4	1.3	0.3	0.6		

## 御小園之久保道跡石器一覽表(9)

調査区名	遺物番号	地針高付	出土層位	種 別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	標尺番号	測定番号	備 考
E-5-a-10	42	1421.187	□-△-5	アレイフ	4.6	2.7	0.5	6.3	22	12-1・2 4, 58と複合
E-5-a-10	43	1421.124	□-△-5	アレイフ	3.2	1.6	0.3	1.6	27	
E-5-a-10	44	1421.068	□-△-5	チップ	1	0.7	0.1	0.2		
E-5-a-10	45	1421.068	□-△-5	アレイフ	2.4	1.6	0.1	0.5	27	
E-5-a-10	46	1421.043	□-△-5	アレイフ	2.1	2.2	0.3	0.9		
E-5-a-10	47	1421.171	□-△-5	輪状アレイフ	6.9	4.1	1.2	30.8	27	11-2
E-5-a-10	48	1421.6	□-△-3	碎片	2.1	3.8	1.3	7.3		
E-5-a-10	49	1421.025	□-△-5	石刀	3.8	2	0.8	6.1	24	13-1・2 7, 12, 15, 32と複合
E-5-a-10	50	1420.96	□-△-5	アレイフ	2.3	2.6	0.5	2.9	27	
E-5-a-10	51	1420.955	□-△-5	石刀根削片	3.2	2	0.5	3.3	27	
E-5-a-10	52	1420.88	□-△-5	アレイフ	2.8	1.9	0.5	2.7	27	
E-5-a-10	53	1420.93	□-△-5	アレイフ	1.4	1	0.5	0.8		
E-5-a-10	54	1421.052	□-△-5	コア	3.3	7.2	2.5	74	25	14-1・2 18, 20, 33と複合
E-5-a-10	55	1420.565	□-△-6	断面	3.2	2.5	1.2	7.7	26	
E-5-a-10	56	1420.77	□-△-5	アレイフ	6.3	2.9	1.2	14.6	27	11-2
E-5-a-10	57	1420.765	□-△-5	石刃	3.1	4.3	1.4	22.7	27	下部欠損
E-5-a-10	58	1421.275	□-△-5	コア	5.7	4.5	4	86	22	12-1・2 4, 48と複合
E-6-a-3	1	1422.22	⑤	チップ	0.8	1.4	0.1	0.11		
E-6-a-4	1	1422.05	⑤	アレイフ	2.4	1	0.3	0.7		
表様	1	0		エンド・スクレーフ- アレイフ	6	3.8	1.4	18.5	28	東南貯蔵
表様	2	0		アレイフ	5.3	3	0.9	12.8	28	東南貯蔵
表様	3	0		アレイフ	3.8	3.2	0.4	3.6	28	東南貯蔵
表様	4			コア	1.9	2.4	1.6	7.3		東南貯蔵
表様	5			コア	1.4	2	1.2	3.3		東南貯蔵

細小層之久保遺跡行器一覽表(1)

調査区名	遺物番号	地質層位	出土層位	幅	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	埋没度	回収番号	回収番号	備考
表様	6		7レイク		1.5	1.5	0.7	1.5			
表様	7	0	粗石刃		1.9	0.6	0.2	0.4			東南汎帶
表様	8	0	チッソ		0.9	2	0.4	0.5			東南汎帶
表様	9		チッソ		1.6	1.3	0.1	0.3			東南汎帶
表様	10		チッソ		1	2	0.3	0.7			東南汎帶
表様	11		チッソ		1.7	1.3	0.2	0.6			東南汎帶
表様	12		7レイク		1.8	1.7	0.3	1			東南汎帶
表様	13		チッソ		1.1	1.2	0.3	0.6			東南汎帶
表様	14		7レイク		2.6	2.3	0.4	2.4			P-4-a-8付近
表様	15		7レイク		1.8	1.6	0.4	0.7			P-4-a-8付近
表様	16		7レイク		2.3	1.3	0.2	0.6			P-4-a-8付近
表様	17		7レイク		1.9	1.8	0.4	1.3			C-6-j-10付近
表様	18		7レイク		2.2	1.3	0.2	0.6			C-6-j-10付近

## 第IV章 結語

茅野市の先土器時代の遺跡の多くは白樺湖周辺と蓼科周辺に集中している。本遺跡はその中でも最大規模の面積を有する遺跡であり、八ヶ岳山麓の先土器時代の研究上欠かせない、考古学的にも非常に貴重な遺跡ということができる。

今回の御小屋之久保遺跡試掘調査では、おもに遺跡の広がりを見る事に主眼が置かれた。それによると、調査区を設けた最も北にまで遺跡が広がっていることが確認されている。また、本文で述べたように、当初東西にある沢の内側だけと考えられたものが、西側の沢を越えてまで遺物の出土がみられた。東側の沢を越えた地区は、樹木が多く調査確認ができなかつたが、遺物が分布する事は十分考えられ、遺跡範囲を縮小特定する事は不可能である。むしろ、今回調査区を設けた範囲を越えて遺跡が広がっていると考えた方がよさそうな状況さえも示している。また、一つ一つの遺物集中個所（ブロック）が50～60cmと小さいものもあるため、今回調査した調査区の中で、遺物の出土しなかった調査区付近も、今後調査を行う事によって遺物を出土する可能性は十分あり、開発を行うに当たっては、作業区域全面の調査が必要と考える。

また、今回の調査では、前回の調査で確認された文化層の下に、更に2枚の文化層が確認されている。最下層の文化層までは、地表から約2mである。作業上の安全を考慮して2mで調査を中断したが、この下層に更に古い文化層が存在する可能性も残されている。

今回の試掘調査による報告でも、遺物の出土状態、及び接合関係等若干みてきたが、調査範囲が極めて小さく、各調査区を越えて遺物が出土すると考えられる所も少なくないので、詳細な検討は、次回に譲りたい。

今回の調査では、現在の自然環境を極力残すように努めた為、植生調査等を行わなかった。また、科学的な分析による年代測定等を行える調査体制を組むことも出来なかつたが、本調査の折には現在の植生調査ばかりでなく、年代測定や当時の環境の復元を試みることの出来る調査体制で臨む必要がある。今回の詳細分布調査では、その一部を見ただけであるが、できることなら開発が行われることなく、保存されることを望みたい。

## 発掘調査関係者名簿

### 1. 御小屋之久保遺跡試掘調査団

調査団長 小島与四男（茅野市教育長 9月30日退任）

両角 昭二（茅野市教育長 10月1日着任）

調査員 鵜飼 幸雄（茅野市八ヶ岳総合博物館学芸員・日本考古学協会員）、守矢 昌文  
(茅野市教育委員会学芸員・日本考古学協会員)、小林 深志(茅野市尖石考古館  
学芸員)

会計監事 伊藤 勝（茅野市財政課長）

発掘参加者 伊東みゆき、北沢 久、小松とよみ、篠原婦美恵、関 喜子、武居八千代、原  
敏江、藤森 栄子、両角 清近、両角 伸一、矢崎つな子、矢鳴恵美子

### 2. 事務局

事務局長 宮坂 和茂（教育次長）

事務局課長 長田 篤（生涯学習課長）

事務局係長 岩波 吉春（社会教育係長）

事務局員 守矢 昌文、五味 健志（社会教育係）

図版 I

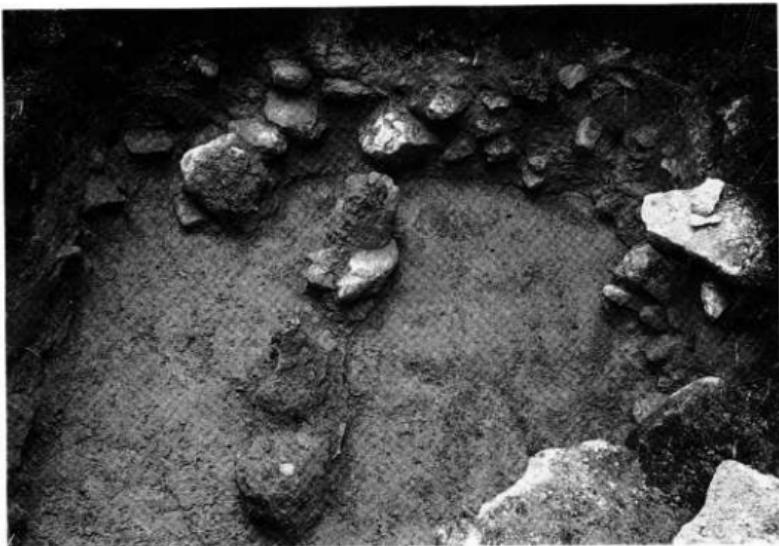


1. 遺跡遠景(1)



2. 遺跡遠景(2)

図版 2

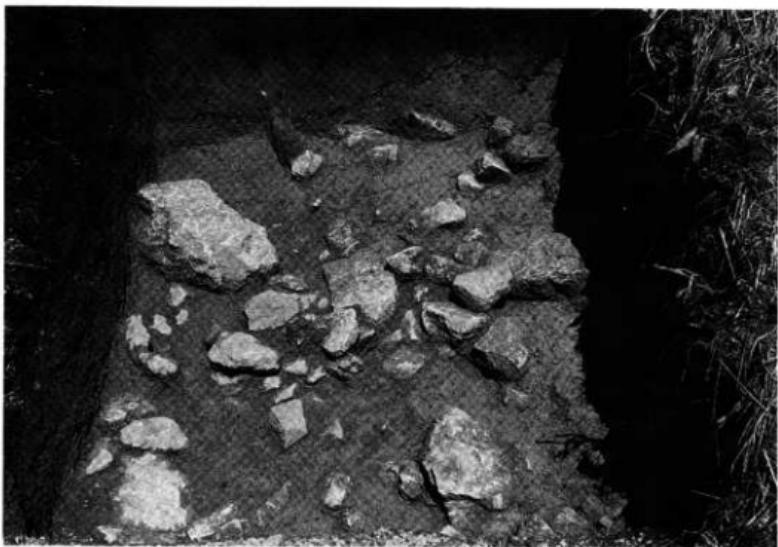


1. A-10-j-10区遺物出土状態（南から）



2. B-4-a-10区遺物出土状態（南から）

図版 3



1. C-1-a-10区遺物出土状態（南から）



2. C-1-a-10区北壁土層堆積状態

図版 4



1. C-2-a-10区遺物出土状態（南から）



2. C-2-a-10区北壁土層堆積状態



1. D-5-f-10区北壁土層堆積状態



2. C-4-g-4区遺物出土状態（南から）

図版 6



1. D-5-h-10区遺物出土状態（南から）



2. E-6-a-4区遺物出土状態（東から）



1. D-2-i-1区遺物出土状態（南から）

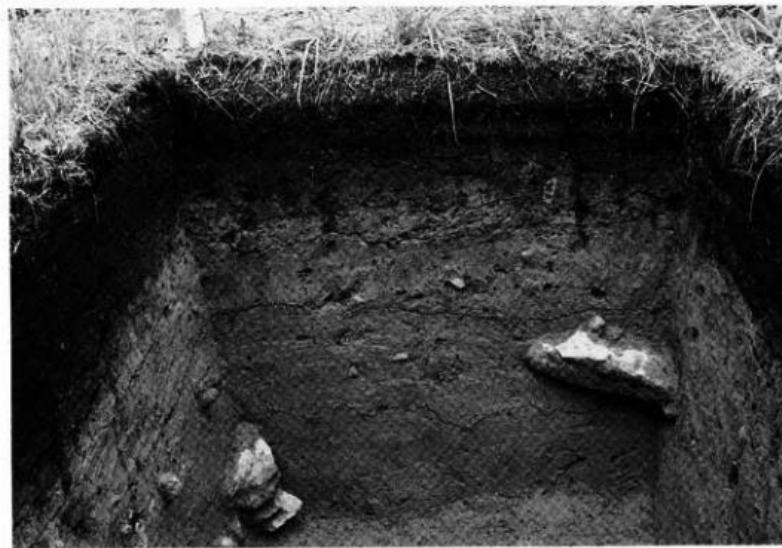


2. E-2-j-1区遺物出土状態（南から）

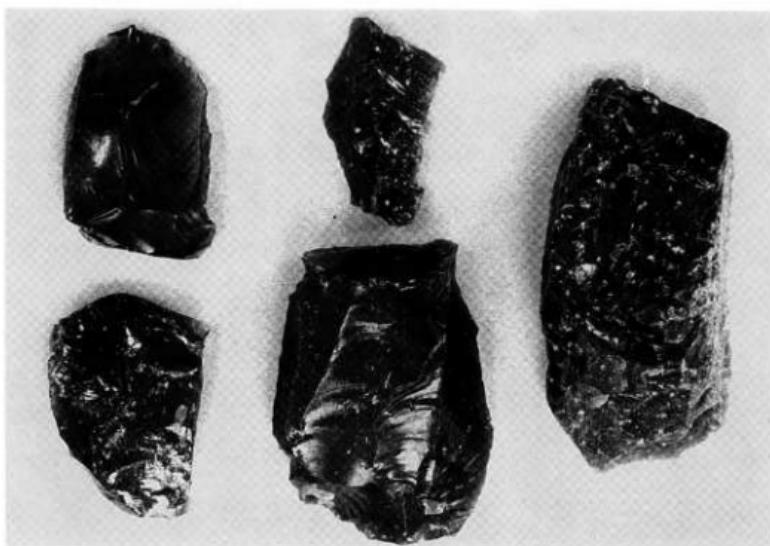
図版 8



1. E-5-a-10区遺物出土状態（南から）



2. E-5-a-10区北壁土層堆積状態

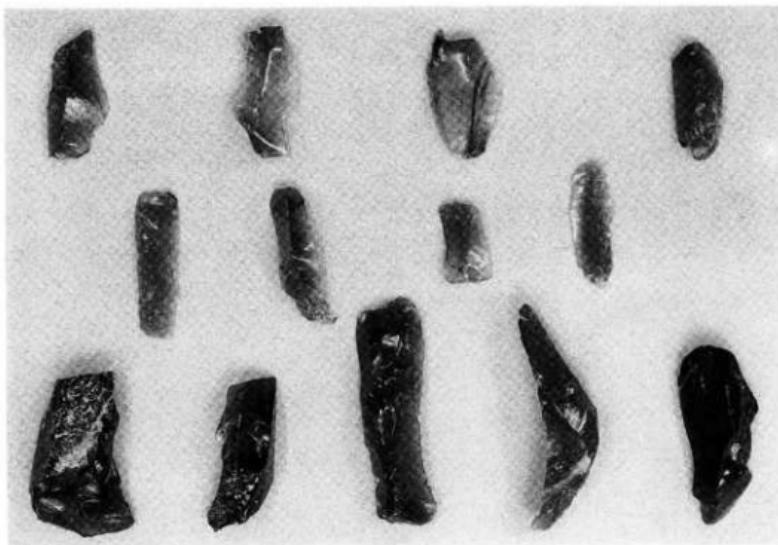


1. A-10-j-10区出土遺物 (約1/1)



2. C-1-a-10区出土遺物 (約1/1)

図版10



1. C-2-a-10(C-2-b-10)区出土遺物(約1/1)



2. C-4-a-10・C-4-g-4(C-4-h-4)区出土遺物(約1/1)

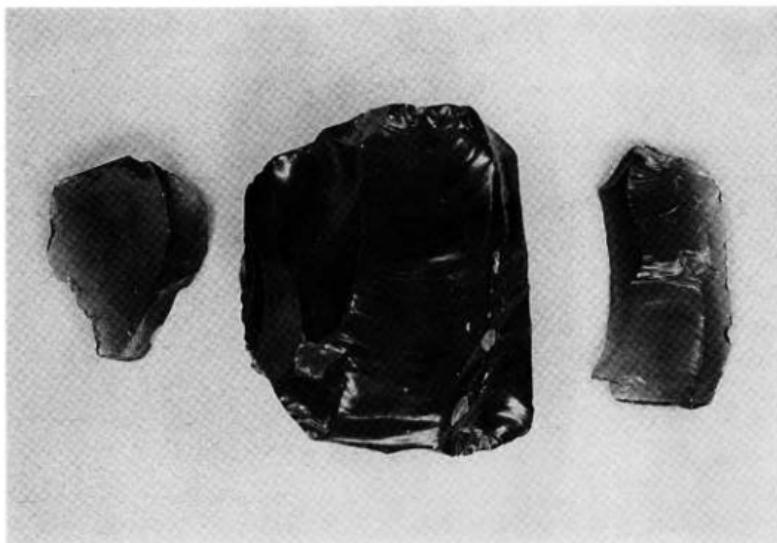


1. D-5-h-10区出土遺物(約1/2)

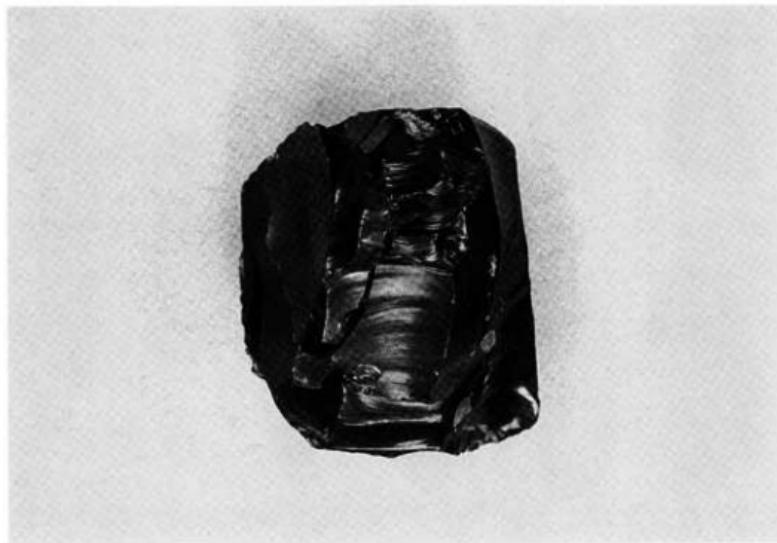


2. E-5-a-10区出土遺物(1)(約1/2)

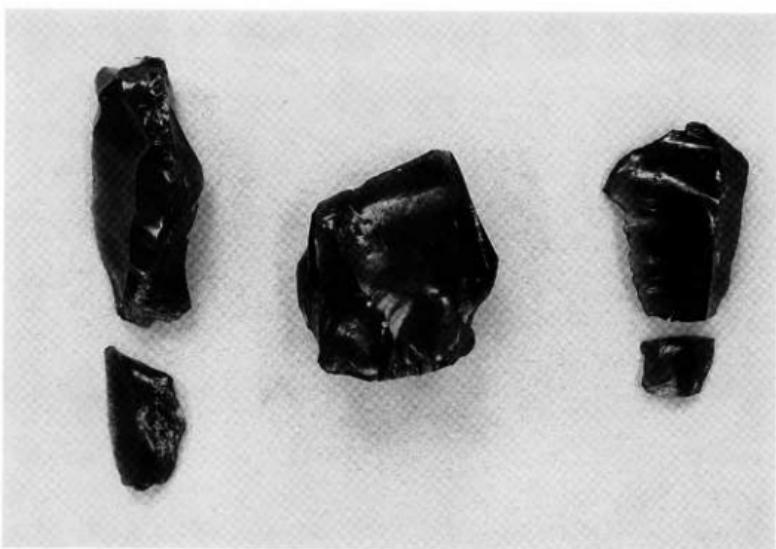
図版12



1. E-5-a-10区出土遺物(2) (約1/1)



2. 上記の接合 (約1/1)

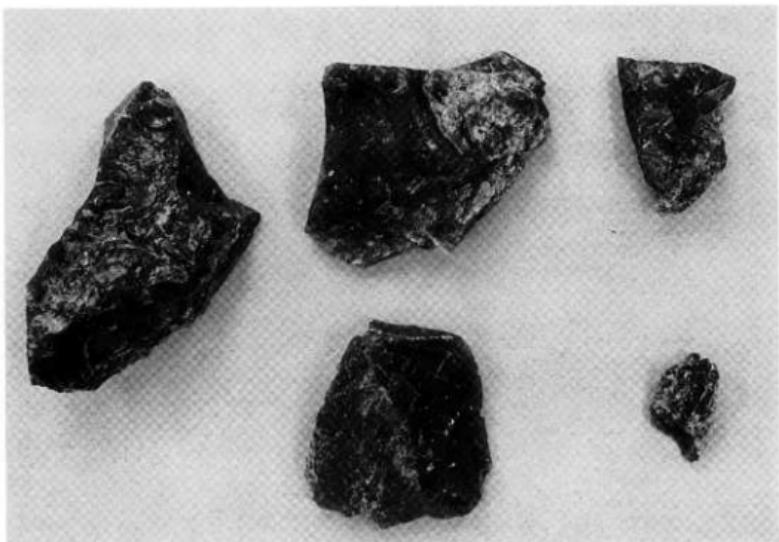


1. E-5-a-10区出土遺物(3) (約2/3)

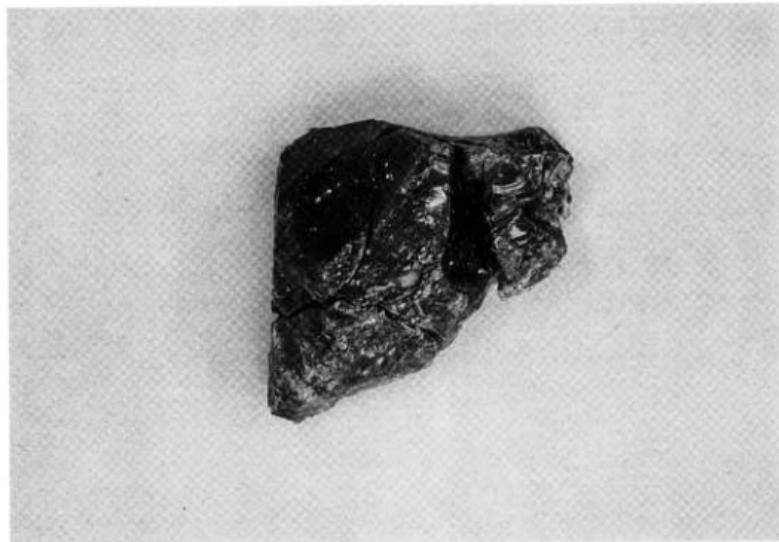


2. 上記の接合 (約2/3)

図版14



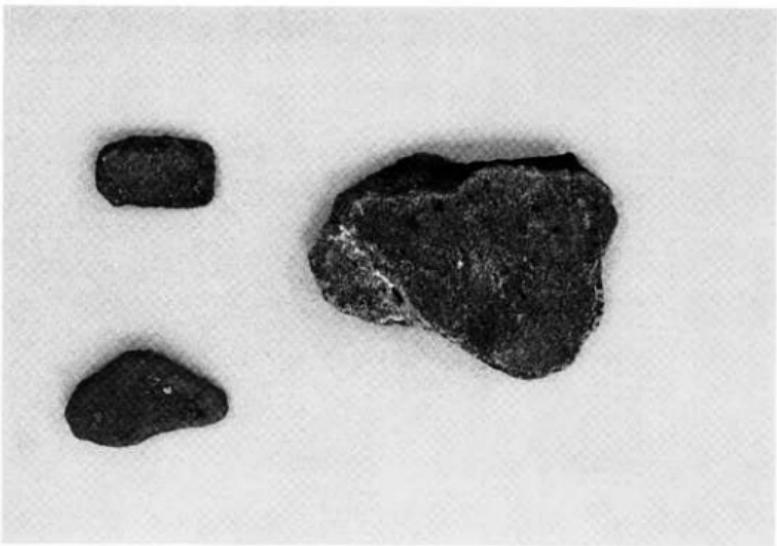
1. E-5-a-10区出土遺物(4) (約2/3)



2. 上記の複合 (約2/3)



1. F-6-a-10区遺構検出状態（南から）



2. 出土土器（約1/1）

---

## 御小屋之久保遺跡

—— 詳細分布調査報告書 ——

---

平成2年3月25日 印刷

平成2年3月31日 発行

編集行 長野県茅野市塚原2丁目6番地1号  
発行 茅野市教育委員会

印刷 ほおずき書籍株式会社

---

